



公益社団法人
日本学生陸上競技連合

会報

向上と進展



「令和5年度上半期の事業を終えて」

会長 松本 正之

日頃は、日本学生陸上競技連合の運営に対して格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。この上半期は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための制限も緩和され、久しぶりにさまざまな制約がなくなった運営となりました。その間、多くの関係各位のお力添えに改めて感謝申し上げます。

日本学連の組織運営の要となります会議の開催につきましては、4月の第59回理事会、5月の第60回理事会、6月の第15回定時社員総会、9月の第61回理事会、また各理事会開催のための企画委員会の開催など、本連合の運営に関する協議や諸報告など、必要な議題を討議し、進めてまいりました。また、主催競技会につきましては4月に2023日本学生陸上競技個人選手権大会を、7月に秩父宮賜杯第63回実業団・学生対抗選手権大会、9月に入ってから天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会を開催いたしました。

個人選手権では、FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)の最終選考会として開催いたしました。各選手の日頃の練習成果が発揮され多くの大会新記録が誕生しました。

実業団・学生対抗では、日本選手権で活躍した選手やアジア選手権、ブダペスト世界選手権代表選手が多数出場し、学生競技者が学ぶことも多く大変有意義なものとなりました。今後も実業団と共に、この競技会を通じてより多くの方に陸上競技に対する興味・関

心を持っていただけるより良い大会にして参りたいと考えております。

7月から8月にかけては2021年から延期となっていたFISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)が開催されました。本連合が重要競技会として位置づけているこの大会で、金メダル2個、銀メダル4個、銅メダル5個を獲得する活躍をみせ、我が国の学生競技者の力を世界の学生陸上競技界に示すことができました。

今年度の日本インカレは熊谷スポーツ文化公園陸上競技場にて開催され、暑さの中、日本タイ記録をはじめとする数々の記録が誕生する大会となりました。例年と違い3.5日間という競技日程となりましたが、4年ぶりに各大学の集団応援が復活するなど日本インカレらしい形で大会を無事に終了することができました。これも関東学生陸上競技連盟、一般財団法人埼玉陸上競技協会など関係する皆様のご協力の賜物であり、改めて深謝申し上げます。

10月からはいよいよ下半期に入り、本連合は各種駅伝、ロード競技の開催を予定しております。開催に向け、ファンや地元関係者の方々のご協力を得ながら、万全を期して参ります。学生競技者諸君の一層の競技力の向上を期待すると共に、関係各位のより一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、ご挨拶といたします。

公益社団法人 日本学生陸上競技連合

会報 第168号 (令和5年10月6日発行)

向上と進展

目次

会長あいさつ 松本正之	1
-------------------	---

【海外派遣報告】

ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)	3
--------------------------------	---

【大会報告】

2023オールスターナイト陸上	7
天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会	9

【会議等報告】

第59回理事会	14
第60回理事会	24
第15回定時社員総会	26
第61回理事会	27

【その他】

競技委員会／総務委員会より	33
令和5年度会員について	34
賛助会員・募集／編集後記	35

【海外派遣報告】

FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 競技成績

日本選手団陸上競技監督 安井 年文

ワールドユニバーシティゲームズの陸上競技(8月1～6日)が開催された中国・成都市は中国7番目の人口を誇る大都市であり、近代的な施設と高いホスピタリティで執り行われた。日本選手団は41名の選手(男子24名、女子17名)にスタッフ15名の総勢56名の陣容で、前回、前々回と同様のメダルプレーシング(国別メダル獲得数)においての最上位を目標とし、競技に臨んだ。

結果は金メダル2、銀メダル4、銅メダル5、入賞23という結果であった。これは前回大会、前々回大会のメダル数と比較すると低調であったと言える。

大きな要因としては、ハーフマラソンを中心とした長距離種目や競歩において、これまでは出場者全員がメダルを獲得するほどの独占状態の勢力図であったが、今回大会では新たな国が参入し、大きな勢力図の変化が起きてきたことがうかがえる。とはいえ、長距離、競歩種目の活躍は今回大会でも好成績の大きな部分を占めているのも事実である。

しかし、今回大会では男子の110mハードルで金メダル獲得、200mで銀メダル獲得と、これまでの一般種目においてはリレー種目でのメダル獲得が多くを占めてきた中で、個人種目でのメダルが増えてきたことは今大会での特筆されるものである。これは、

個人種目とリレー種目での相互作用として顕出されてきた結果であると考えられる。どちらかを取り立てて優先し、選考するものではなく、両輪といった方向性の中で選手選考等を行ってきた結果であると推察される。

これまででもリレーでの金メダル獲得の際に、個人ではメダル獲得に至らなかったケースや個人種目でのメダル獲得と併せてリレーでもメダル獲得といったケースもあった。メダル獲得を目指すリレー種目においても、選考基準として個人種目での派遣標準記録突破を目安としていることは、その妥当性を明らかにしてくれているものと考えられる。

さらに今大会での結果の特徴として、入賞者は出場選手41名中36名(約88%)であった。この中にはリレーでのみ入賞した選手もいるものの、大半の選手が持てる力を発揮したことが、先ずもって大きな要因であることが前提条件でありました選考基準の精度が上がってきていることによる妥当な選手選考になってきていることも想起させるものであった。今後、WUGでのバランスの良い競技結果が残せるようにしていくためには、現場での強化から派遣へと、ぶれない強化方針をつなげていくことが肝要であると考えられた。



中国で貴重な国際経験を積んだ日本代表選手たち



今大会の日本勢金メダル第1号となったのは男子110mHの豊田兼（慶應義塾大、左から3人目）。予選で学生歴代3位の13秒29（+1.1）をマークして勢いに乗り、決勝は13秒40（-0.2）で制した。その左は8位だった宮崎匠（中央大）



この種目でシニア、ジュニアの全カテゴリーを通じて初の世界一という快挙を成し遂げた豊田



29分22秒95で男子10000m銅メダルを手にした山本唯翔（城西大、左）。中盤で先頭集団から離れたものの、最後まで粘りの走りでメダル圏内に食い込んだ

4 海外派遣報告

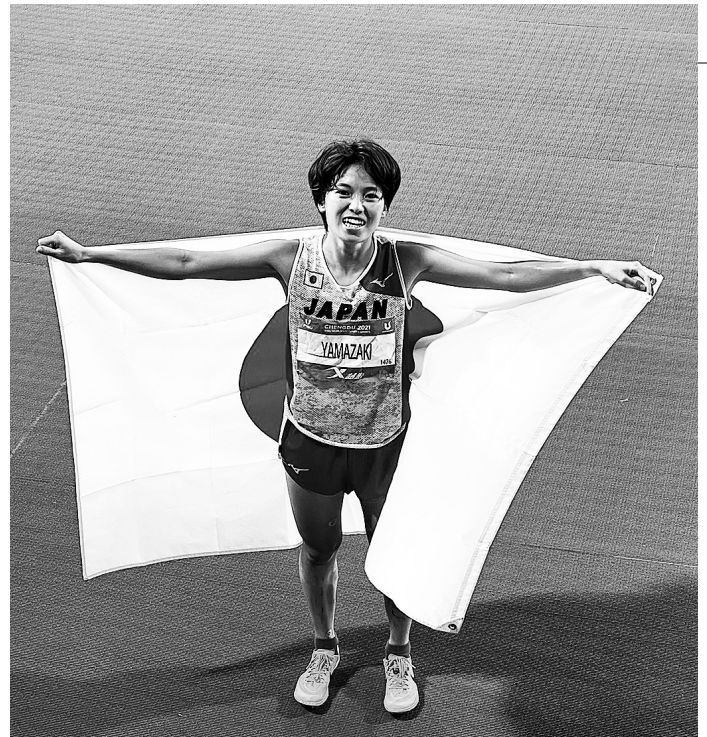


後半にトルコ勢に先行された北川（中央）だが、残り500mで逆転して同種目日本勢の連覇を「3」に伸ばした。右へ8位に入賞した永長里緒（大阪学院大）、13位だった原田紗希（名城大）

女子ハーフマラソンで金メダルに輝いた北川星瑠（大阪芸術大）。Vタイムは1時間13分17秒



29分22秒95で男子10000m銅メダルを手にした山本唯翔（城西大、右）。中盤で先頭集団から離れたものの、最後まで粘りの走りでメダル圏内に食い込んだ



女子5000mでは山崎りさ（日本体育大学）が16分08秒86で銅メダル。フィニッシュ間際まで展開されたメダル争いを0.04秒差で制した

男子3000m障害に8分40秒84で3位を占めた菟浦敦司（早稲田大）。ラスト1周でメダルラインに浮上し、同種目で日本勢32年ぶりのメダル獲得を果たした

ワールドユニバーシティゲームズ(2021 / 成都) 競技成績

男 子								
氏名	所属	種目	予選	記録	準決勝	記録	決勝	記録
井上 直紀	早稲田大学	100m	落選	10.66	—	—	—	—
中村 彰太	東洋大学	100m	通過	10.47	落選	10.34	—	—
稲毛 碧	早稲田大学	200m	通過	20.84 (PB)	通過	20.64 (PB)	8位	21.10
西 裕大	早稲田大学	200m	通過	20.85	通過	20.43 (PB)	2位	20.46
地主 直央	法政大学	400m	通過	46.43	通過	45.90	4位	45.58 (PB)
今泉 堅貴	筑波大学	400m	通過	47.23	通過	46.01	8位	47.18
豊田 兼	慶應義塾大学	110m H	通過	13.29 (PB)	⇒	⇒	優勝	13.40
宮崎 匠	中央大学	110m H	通過	13.53	⇒	⇒	8位	13.83
井上 直紀	早稲田大学	4 × 100m R	通過	38.98	⇒	—	5位	38.92
中村 彰太	東洋大学							
稲毛 碧	早稲田大学							
西 裕大	早稲田大学							
宮崎 匠	中央大学	予選：①井上②稲毛③中村④西 決勝：①宮崎②稲毛③中村④西						
稲毛 碧	早稲田大学	4 × 400m R	棄権	—	—	—	—	—
西 裕大	早稲田大学							
地主 直央	法政大学							
今泉 堅貴	筑波大学							
豊田 兼	慶応義塾大学							
決勝：								
高村比呂飛	日本体育大学	1500m	落選	4.00.28	—	—	—	—
安原 太陽	駒澤大学	5000m	通過	14.42.91	⇒	⇒	2位	14.14.15
石原翔太郎	東海大学	5000m	通過	14.31.91	⇒	⇒	4位	14.16.43
山本 唯翔	城西大学	10000m	—	—	—	—	3位	29.22.95
菖蒲 敦司	早稲田大学	3000m S C	通過	9.04.54	⇒	⇒	3位	8.40.84
篠原倅太郎	駒澤大学	ハーフマラソン	—	—	—	—	6位	1.05.39
吉田 礼志	中央学院大学	ハーフマラソン	—	—	—	—	4位	1.05.00
松永 伶	法政大学	ハーフマラソン	—	—	—	—	12位	1.06.39
ハーフマラソン					団体		3位	3.17.18
萬壽 春輝	順天堂大学	20 k m W	—	—	—	—	3位	1.25.32
吉川 絢斗	東京学芸大学	20 k m W	—	—	—	—	8位	1.29.06
立岩 和太	順天堂大学	20 k m W	—	—	—	—	5位	1.26.40
		競歩	団体				2位	4.21.18
鳥海 勇斗	日本大学	走幅跳	通過	7.54	⇒	⇒	5位	7.74 (SB)
柄澤 智哉	日本体育大学	棒高跳	—	—	—	—	4位	5.35
古澤 一生	筑波大学	棒高跳	—	—	—	—	記録なし	—
巖 優作	筑波大学	やり投	通過	72.65	⇒	⇒	5位	74.58
鈴木 凜	九州共立大学	やり投	通過	70.37	⇒	⇒	4位	78.41 (PB)

女 子								
氏名	所属	種目	予選	記録	準決勝	記録	決勝	記録
石川 優	青山学院大学	100m	通過	12.02	落選	11.95	—	—
三浦 由奈	筑波大学	100m	通過	11.59 (SB)	落選	11.59	—	—
三浦 愛華	園田学園女子大学	200m	落選	24.54	—	—	—	—
井戸アヅサ/風果	甲南大学	200m	通過	24.16	落選	24.17	—	—
伊藤 彩香	福岡大学	100m H	落選	14.18	—	—	—	—
山本 亜美	立命館大学	400m H	通過	57.82	通過	57.56	5位	57.19
石川 優	青山学院大学	4 × 100m R	通過	44.92	⇒	—	4位	44.66
三浦 由奈	筑波大学							
三浦 愛華	園田学園女子大学							
井戸アヅサ/風果	甲南大学							
伊藤 彩香	福岡大学	予選、決勝：①三浦愛②三浦由③井戸④石川						
樫原 沙紀	筑波大学	1500m	通過	4.24.98	⇒	⇒	5位	4.18.57
山崎 りさ	日本体育大学	5000m	通過	16.58.97	⇒	⇒	3位	16.08.86
村松 灯	立命館大学	5000m	通過	17.10.66	⇒	⇒	11位	16.51.22
山崎 りさ	日本体育大学	10000m	—	—	—	—	5位	34.35.96
村松 灯	立命館大学	10000m	—	—	—	—	9位	35.17.54
北川 星瑠	大阪芸術大学	ハーフマラソン	—	—	—	—	優勝	1.13.17
永長 里緒	大阪学院大学	ハーフマラソン	—	—	—	—	8位	1.15.34
原田 紗希	名城大学	ハーフマラソン	—	—	—	—	14位	1.16.36
		ハーフマラソン	団体				2位	3.45.27
柳井 綾音	立命館大学	20 k m W	通過	1.38.51	⇒	⇒	6位	1.38.51
船田 茜理	武庫川女子大学	三段跳	通過	13.26	⇒	⇒	8位	13.23
齋藤 真希	東海大学	円盤投	—	—	—	—	8位	54.28
村上 来花	九州共立大学	ハンマー投	通過	63.63	⇒	⇒	6位	62.02
田中 友梨	至学館大学	七種競技	—	—	—	—	22位	4670

金メダル

銀メダル

銅メダル

8位入賞

【大会報告】

2023オールスターナイト陸上 秩父宮賜杯第63回実業団・学生対抗陸上競技大会

副幹事長 三浦 拓也

1. 大会名：2023オールスターナイト陸上
(秩父宮賜杯第63回実業団・学生対抗陸上競技大会)

2. 大会期日：2023年7月1日(土)

3. 場所：神奈川県・レモンガススタジアム平塚

4. エントリー数

学生：73名

(男子27名 G P参加11名、女子27名 G P参加8名)

実業団：71名

(男子27名 G P参加5名、女子27名 G P参加12名)

5. 選手団役員

監督	山下 誠
男子コーチ	黒須 雅弘
女子コーチ	小倉 幸雄
男子主将	地主 直央
女子主将	船田 茜理
マネージャー	三浦 拓也

6. 大会総括

令和5年7月1日(土)、レモンガススタジアム平塚を舞台に、2023オールスターナイト陸上(秩父宮賜杯第63回実業団・学生対抗陸上競技大会)が開催されました。

今年度より日本グランプリシリーズに参画し、新たな試みでの大会となりました。FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)やブダペスト世界選手権、アジア選手権、アジア大会で日の丸を背負う選手が多数エントリーし、女子100mハードルでは、日本記録保持者の福部真子選手(日本建設工業)やブダペスト世界選手権代表の寺田明日香選手(ジャパングリエイト)が出場するなど、レベルの高い争いが繰り広げられました。

男子100mでは、ブダペスト世界選手権代表の柳田大輝選手(東洋大)が他の選手を寄せ付けずに走り、大会新記録となる10秒10の好タイムで見事優勝を果たし、大いに会場を湧かせました。男子400mでは、学生選手団の主将を務めた地主直央選手(法政大)が意地を見せ、猛烈なラストスパートで優勝を果たしました。

女子400mハードルでは日本選手権3連覇を成し遂げた絶対的女王、山本亜美選手(立命館大)がラスト100mで逆転する粘りの走りで格の違いを見せつけました。

女子三段跳では、地主選手と共に選手団の主将を務めた船田茜理選手(武庫川女子大)が、追い風参考記録ながら13m59をジャンプ。大会新記録となる13m56と素晴らしい跳躍を見せた高島真織子選手(九電工)を上回り、ハイレベルな戦いを制しました。

リレー種目では今年度も男女混合4×400mリレーを実施し、学生選手団からは川北脩斗選手(びわこ成蹊スポーツ大)、安達茉鈴選手(園田学園女子大)、近藤七海選手(至学館大)、地主選手が出走し、フィニッシュ直前まで勝負の行方がわからない白熱したレース展開でしたが、惜しくも実業団に敵いませんでした。

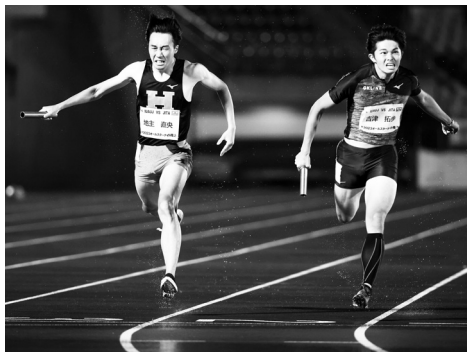
総合結果としては実業団が211点、学生が177点で10年ぶりの優勝とはならず、改めて実業団の強さを痛感させられる結果となりました。

個人結果では、学生選手団から男子最優秀選手賞に100mで圧倒的な走りを見せた柳田選手が選出されました。学生が最優秀選手賞を獲得したのは第53回大会以来となり、久々の快挙となりました。MIP賞には高島選手との激しい戦いを制した、女子三段跳の船田選手が選ばれ、主将として最後の最後まで学生選手団を牽引しました。

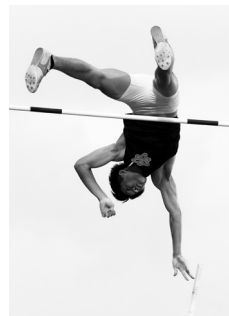
今年度も大会を無事に終了することができましたのは、神奈川県陸上競技協会並びに平塚市の皆様のご尽力と関係各位のご支援、ご協力があったことと深く感謝いたします。来年以降もより良い大会を創っていくべく精進いたしますので、今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



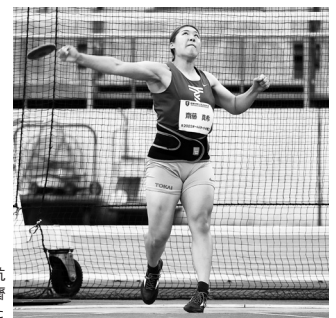
女子三段跳で好勝負を演じた1位・船田茜理(武庫川女子大、右)と2位・高島真織子(九電工)。船田が13m59(+2.1)、高島は大会初の13m56(+1.9)をマークした



男子100mを自己新の10秒10(+0.3)で優勝した柳田大輝(東洋大、中央)。学生としては10年ぶりのMVPに輝く



男子棒高跳は日本選手権覇者・柄澤智哉(日体大)が5m50で制覇



大接戦となった最終種目の男女混合4×400mRは3分24秒52で実業団(アンカー・吉津拓歩/ジーケーライン、右)が制す。学生は0.10秒及ばなかったが、アンカーを務めた男子主将・地主直央(法大)は400mを46秒29で制して気を吐いた

今大会は日本グランプリシリーズとして開催され、対抗以外にG P種目だった女子円盤投は齋藤真希(東海大)がシーズンベストの56m80で快勝した

第63回実業団・学生対抗 成績

7月1日 神奈川・平塚

男子

●100m(+0.3)

①柳田大輝(東洋大)*	10.10
②勝瀬健大(MOCT)*	10.24
③灰玉平吾吾(八戸学院大)	10.32
④原田 暁(北九州R i C)*	10.36
⑤岡崎隼弥(ATHLETE LINK)*	10.37
⑥中村彰太(東洋大)*	10.37
⑦稲毛 碧(早稲田大)*	10.38
⑧福島 聖(富山銀行)	10.58

●400m

①地主直央(法政大)*	46.29
②吉津拓歩(ジーケーライン)*	46.54
③メルドラム アラン(東京農業大)*	46.56
④川北脩斗(びわこ成蹊スポーツ大)*	46.79
⑤岩崎立樹(三重県スポ協)*	46.85
⑥小淵瑞樹(登利平)*	47.57

●800m

①川元 奨(スズキ)	1.47.06
②北村魁士(山梨学院大)*	1.48.06
③早川龍斗(SMILEY ANGEL)*	1.48.08
④東 秀太(広島経済大)*	1.48.17
⑤山崎優希(KAGOTANI)*	1.48.25
⑥高橋 創(東大)	1.49.39
⑦筒井航佑(早稲田大)	1.50.04
⑧瀬戸口大地(TeamSSP)*	1.52.91
⑨盛耕太郎(東海学園大)*	1.53.84

●110mH(-0.7)

①野本周成(愛媛県競技力向上)	* 13.51
②藤井亮汰(三重県スポ協)*	13.60
③豊田 兼(慶應義塾大)*	13.61
④小池 綾(法政大)	13.81
⑤阿部竜希(順天堂大)*	13.87
⑥宮崎 匠(中央大)*	13.97

●400mH

①筒江海斗(スポーツテック/和広)	* 49.71
②岸本鷹幸(富士通)*	49.90
③川越広弥(JAWS)*	50.01
④栗林圭正(立命館大)*	50.09
⑤小川大輝(東洋大)*	50.33
⑥出口晴翔(順天堂大)*	50.80

●棒高跳

①柄澤智哉(日本体育大)*	5.50
---------------	------

②石川拓磨(東京海上日動CS)*	5.40
③澤 慎吾(きらぼし銀行)*	5.40
④原口篤志(東大阪大)*	5.40
⑤来間弘樹(ストライダーズ)*	5.40
⑥松井楓雅(日本体育大)*	5.10

●走幅跳

①山浦溪斗(新潟県7県部)*	7.94(+0.8)
②山川夏輝(TeamSSP)*	7.76(+1.2)
③外川天寿(走りの学校)	7.61(+2.5)
	67.56(+0.6)

④作家弥希(駿河台大)*	7.58(+1.2)
⑤北川 凱(東海大)*	7.53(+1.7)
⑥乃美裕介(広島大)*	7.37(+1.0)
⑦新留 陸(国際武道大)*	7.37(+0.8)
⑧谷口 祐(新潟県グルーブ)*	7.20(+1.8)

●円盤投

①幸長慎一(四国大職)*	57.19
②山下航生(九州共立大)*	55.44
③北原博企(新潟医療福祉大)*	53.58
④米沢茂友樹(オリコ)*	53.00
⑤蓬田和正(KAGOTANI)*	52.18
⑥飛川龍雅(東海大)*	51.69
⑦鴨澤青海(東海大)	50.12
⑧安藤 夢(みはる矯正歯科医院)	45.91

●やり投

①巖 優作(筑波大)*	77.70
②小椋健司(エイジエック)*	75.57
③石坂力成(鳥取県スポ協)*	74.74
④中村竜成(国土館大)*	74.53
⑤鈴木 凜(九州共立大)*	74.02
⑥長沼 元(スズキ)	72.99
⑦朝田康聖(大阪教育大)*	70.52
⑧坂本達哉(修文学院高教)*	70.21

女子

●100m(-0.1)

①三浦由奈(筑波大)*	11.63
②青野朱朱(NDソフト)*	11.63
③岡根和奏(甲南大)*	11.70
④喜咲いちこ(エディック)*	11.84
⑤安達有羽(駿河台大)*	12.05
⑥島田沙絵(チョーブロ)*	12.06

●400m

①岩田優奈(スズキ)	54.08
------------	-------

②安達美鈴(園田学園女子大)*	54.09
③吉田紗乃(クレイン英学校)*	54.15
④大島愛梨(宇都宮市役所)*	54.41
⑤児島柚月(立命館大)*	55.25
⑥近藤七海(至学館大)*	56.27
⑦福岡真由(KAGOTANI)*	56.40

●800m

①堀見綾乃(岩谷産業)*	2.05.47
②池崎愛里(タイソー)*	2.05.54
③西田有里(草津東高)*	2.06.28
④川田朱夏(ニコニコのり)*	2.06.33
⑤原 華澄(大阪体育大)*	2.06.55
⑥山田はな(わらべや日洋)*	2.06.98
⑦新田 望(早稲田大)*	2.09.68
⑧仲子綾乃(慶應義塾大)*	2.10.64

●100mH(-0.9)

①福部真子(日本建設工業)*	12.90
②寺田明日香(ジャパネット)*	12.92
③清山ちさと(いちご)*	13.09
④大松由季(サンドリオン)*	13.29
⑤小宮いつき(ジーケーライン)*	13.44
⑥本田 怜(順天堂大)*	13.44
⑦中村真琴(日本体育大)*	13.71
⑧川越美咲(法政大)*	13.88

●400mH

①山本亜美(立命館大)*	57.55
②南澤明音(松本土建)*	57.97
③青木穂花(青山学院大)*	58.12
④大川美香(早稲田大)*	58.44
⑤工藤芽衣(立命館大)*	58.66
⑥横田華恋(KAGOTANI)*	59.14
⑦梅原紗子(住友電工)*	59.33
⑧川村佳佳(早稲田大)*	61.41

●走高跳

①高橋 渚(メイスンワーク)*	1.83
②松本万緒(甲南大)*	1.76
③竹内 萌(カンセキ)*	1.76
④伊藤 楓(日本体育大)*	1.73
⑤鎌久美由紀(鹿児島銀行)*	1.70
⑥諸隈あやね(日本女子体育大)*	1.67
⑦井上紗耶加(順天堂大)*	1.67

●三段跳

①船田茜理(武庫川女子大)*	13.59(+2.1)
	公13.33(+1.4)

②高島真織子(九電工)*	13.56(+1.9)
③岸野美雨(四国大)*	12.98(+0)
④中村紗華(順天堂大)*	12.60(+3.0)
	公12.51(+0.1)

⑤齋藤 遥(武庫川女子大)*	12.58(+0.3)
⑥大塚葉月(青山学院大)*	12.20(+2.2)
	公12.03(+1.2)
⑦宮畑さくら(MPancD)*	11.93(+1.4)
⑧西澤海来(ゴールドジム)*	11.72(+1.1)

●砲丸投

①大野史佳(筑波大)*	15.63
②小山田美由子(日大門野友会)*	15.50
③尾山和華(今村病院)*	15.40
④久保田亜由(九州共立大)*	15.14
⑤松下ひろ子(筑波大塚特支隊)*	14.98
⑥日夏涼香(福岡大)*	14.44
⑦大迫晴香(染めQ)*	14.35
⑧菊池聖奈(日本大)	13.55

●円盤投

①齋藤真希(東海大)	56.80
②都築佳佳(新潟アルビレックスRC)	55.95
③辻川美乃利(内田洋行)	50.37
④川口紅音(ウィザース)*	49.59
⑤山本実果(コンドーテック)*	48.89
⑥半田水晶(染めQ)*	47.93

●ハンマー投

①村上来花(九州共立大)*	63.35
②小館充華(染めQ)*	62.71
③エバサカテラ(新潟医療福祉大)	59.46
④藤本咲良(コンドーテック)*	59.15
⑤渡邊ももこ(ジャックエツ)*	58.67
⑥高橋沙湖(TeamSSP)*	58.21
⑦勝沼玲海(九州共立大)*	57.50
⑧奥村梨里佳(九州共立大)*	54.93

男女混合

●4×400mR

①実業団*	3.24.52
(小淵, 吉田, 大島, 吉津)	
②学生*	3.24.62
(川北, 安達, 近藤, 地主)	

*=対抗選手

【大会報告】

天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会

幹事長 崎井 優希菜

1. 大会名：天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会
2. 大会期日：2023年9月14日（木）～17日（日）
3. 場所：埼玉県・熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
4. エントリー数：男子120校998名、女子109校810名
5. 主な競技結果 ※下表参照
6. 大会総括

熊谷スポーツ文化公園陸上競技場にて、天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。熊谷では2大会ぶりの開催となりましたが、コロナ禍の影響を受けた前回大会とは打って変わって、各大学の集団応援が再開するなどコロナ禍前の姿に戻った形で、無事に大会を開催することができました。各大学の応援は工夫が凝らされ、また多くの観客の皆様にも声を出しての応援をいただき、活気に溢れた大会となりました。

昨年に引き続き、気象神社に参拝したお陰か、好天に恵まれた4日間となりました。ただ、日本中が異例の猛暑に見舞われ、選手、スタッフはもちろん、観客の皆様も暑熱対策に迫られた大会でもありました。

男子110mハードルでは村竹ラシッド選手（順天堂大）が、0.9mの向かい風の中で13秒04と激走を見せました。この記録は6月の日本選手権で泉谷駿介選手（住友電工）が出した日本記録に並ぶとともに、泉谷選手が持つ学生記録（13秒06）を2年ぶりに更新するものでした。

今夏、中国にて行われたFISUワールドユニバーシ

ティゲームズ（2021/成都）（以下、WUG成都）で日の丸を背負った西裕大選手（早稲田大）や立岩和大選手（順天堂大）、山崎りさ選手（日本体育大）や檜原沙紀選手（筑波大）などが優勝を飾り、代表選手としての威厳を見せつけました。

他にも、ブダペスト世界選手権で4×100mリレーに2走で出走し、5位に入賞した柳田大輝選手（東洋大）は、100mと4×100mリレーの2冠を達成。4×400mリレーでも、東洋大はブダペスト世界選手権代表・中島佑気ジョセフ選手（東洋大）の猛追により優勝し、リレー種目での2冠を達成しました。注目選手の好走により今大会の中でも最大の盛り上がりを見せたのではないかと感じます。

投てき場にて行われた男女ハンマー投は、いずれも大会新記録が生まれ、男子は安定の投てきで福田翔大選手（日本大）が、女子ハンマー投ではWUG成都6位入賞の村上来花選手（九州共立大）が勢いをそのままに実力を見せつけ、それぞれ優勝を果たしました。

今大会は昨年大会に引き続き、順天堂大が天皇賜盃を、日本体育大が秩父宮賜杯を獲得し、6つの大会新記録と1つの日本タイ記録、日本学生新記録が出るという内容の充実した大会となりました。こうして無事に今大会を開催することができたのも、関係各位のご支援、ご協力があったることと、深く感謝する次第です。来年は神奈川県・等々力陸上競技場にて第93回大会を開催いたします。今後ともご支援、ご協力のほど何卒よろしくお願いいたします。



日本インカレでは栄章贈与式が行われた。左写真は勲功章を受章したワールドユニバーシティゲームズ女子ハーフマラソン金メダルの北川星瑠（大阪芸術大）、右はブダペスト世界選手権代表の柳田大輝（東洋大）。同賞はワールドユニバーシティゲームズ男子110mH金メダルの豊田兼（慶大）にも贈られた



天皇賜盃 第92回日本学生陸上競技対校選手権大会

種目	記録	氏名	所属	学年	備考
男子砲丸投	18m18	アツオビン ジェイソン	福岡大学	3	大会新記録
女子ハンマー投	64m03	村上 来花	九州共立大学	2	大会新記録
男子110mH	13.04	村竹ラシッド	順天堂大学	4	日本タイ記録 日本学生新記録 大会新記録
男子ハンマー投	72m01	福田 翔大	日本大学	M1	大会新記録
女子4×400mR	3:36.71	中尾 柚希	園田学園女子大学		大会新記録
		渡辺 愛			
		栃尾 陽菜			
		安達 茉鈴			
男子4×400mR	3:04.08	小川 大輝	東洋大学		大会新記録
		鈴木 碧斗			
		白木 隼哉			
		中島佑気ジョセフ			



男子110mHで13秒04（-0.9）の日本タイ、日本学生新を叩き出して優勝した村竹ラシッド（順天堂大）



トラック、フィールド、競歩と偏ることなく得点を重ねた順天堂大が男子総合で3年連続31度目の優勝を果たした



総合2位となった福岡大はエース・森山静穂が200m（23秒84／±0）、400m（53秒83）の2冠を達成するなど、短距離種目で高得点を重ねた



女子学校対抗は日体大と福岡大が69点で並んだが、優勝種目数の差で日体大が3連覇。11度目の総合優勝を果たした

10 大会報告



アジア選手権男子100m金メダル、ブダペスト世界選手権100m、4×100mリレー代表の柳田大輝（東洋大、右）が躍動。100mを10秒18（+0.4）で制すと、アンカーを務めた4×100mRも38秒94で優勝して2冠を獲得した。4×100mRは大学として大会初制覇だった



東洋大は男子4×400mRも2年ぶりのV奪還を果たし、リレー2冠に輝く。（左から）小川大輝、鈴木碧斗、臼木車哉、中島佑気ジョセフの強力メンバーでつなぎ、学生歴代2位、大会新の3分04秒08をマークした



女子スプリントは甲南大が席巻。100m（-0.3）は藏重みう（右）が11秒76で制し、2位に岡根和奏（中央）、3位に奥野由萌（左）と史上初のメダル独占を果たした。3人に200m2位&400m3位の井戸アビゲイル風果を加えた4×100Rも44秒72で初優勝。予選では日本学生記録（大学別）に0.01秒と迫る44秒52をマークした



女子ハンマー投の村上来花 (九州共立大) は自身が昨年出した大会記録を更新する64m03で女王の座を守った



激闘となった男子400mH。小川大輝 (東洋大) と豊田兼 (慶應義塾大) が学生歴代8位の48秒91で同着。男子トラック種目での同時優勝は第49回 (1980年) の100m (佐々木達也・日本大 / 山崎博仁・早稲田大) 以来、43年ぶり2例目となる



男子走幅跳は最終6回目に8m07 (+0.8) を跳んだ鳥海勇斗 (日本大) が初制覇。手応え十分のジャンプに力強いガッツポーズが飛び出した



18m18の大会新を樹立したアツオビン ジェyson (福岡大) が男子砲丸投に2年ぶりV



女子4×400m Rは3分36秒71の大会新を出した園田学園女子大が初優勝。アンカーの安達葉鈴が高らかにバトンを掲げてフィニッシュした



4年ぶりに集団応援が復活。インカレらしい活気が戻った

第92回日本学生対校選手権 成績

9月14日～17日 埼玉・熊谷スポーツ文化公園陸上競技場

男子

●100m (+0.4)・15日

①柳田大輝 (東洋大)	10.18
②大上直起 (仙台大)	10.22
③山本匠真 (広島大)	10.33
④三輪颯太 (慶應義塾大)	10.37
⑤宇野勝翔 (順天堂大)	10.37
⑥中村彰太 (東洋大)	10.42
⑦小島大博 (東海大)	10.43
灰玉平佑吾 (八戸学院大) 途中棄権	

●200m (-0.5)・17日

①西 裕大 (早稲田大)	20.75
②宇野勝翔 (順天堂大)	20.80
③鈴木碧斗 (東洋大)	20.85
④木村颯太 (明治大)	20.95
⑤オリサ裕司マイケル (駿河台大)	21.05
⑥小島大博 (東海大)	21.12
⑦藤澤瑠唯 (岩手大)	21.22
⑧大谷介人 (日本体育大)	21.30

●400m・15日

①眞々田光大 (早稲田大)	46.41
②今泉堅貴 (筑波大)	46.56
③林 申雅 (筑波大)	46.78
④友田真隆 (東京理科大)	47.01
⑤佐藤恵士 (環太平洋大)	47.21
⑥野々山開 (三重大)	47.33
⑦原田駿斗 (福岡大)	48.14
⑧原田真聡 (明治大)	48.54

●800m・17日

①北村魁士 (山梨学院大)	1.49.04
②安倍優紀 (東海大)	1.49.19
③東 秀太 (広島経済大)	1.49.37

④橋本真宙 (近畿大)	1.49.55
⑤岡村颯太 (鹿屋体育大)	1.49.56
⑥高村比呂飛 (日本体育大)	1.49.81
⑦二見優輝 (筑波大)	1.49.88
⑧高梨有仁 (関西大)	1.50.16

●1500m・15日

①後田 築 (順天堂大)	3.49.66
②高村比呂飛 (日本体育大)	3.50.02
③松本颯真 (東海大)	3.50.14
④井内優輔 (筑波大)	3.50.69
⑤前田陽向 (環太平洋大)	3.51.19
⑥青木龍翔 (立教大)	3.51.39
⑦高嶋壮太 (環太平洋大)	3.51.44
⑧山田俊輝 (中央大)	3.51.57

●5000m・16日

①L. カミナ (創価大)	13.52.16
②M. ゴッドフリー (駿河台大)	13.53.84
③C. S. キブラガト (第一工大)	13.56.84
④吉岡大翔 (順天堂大)	14.00.43
⑤溜池 一太 (中央大)	14.07.04
⑥亀田仁一路 (関西大)	14.13.08
⑦織橋 巧 (創価大)	14.18.92
⑧小嶋郁依斗 (京都産業大)	14.29.57

●10000m・14日

①R. エディリー (東京国際大)	28.15.75
②S. キップケメイ (日本大)	28.17.38
③S. ムチャーニ (創価大)	28.22.31
④S. レマイヤン (駿河台大)	28.25.95
⑤B. キビエゴン (山梨学院大)	28.53.54
⑥J. ムイガイ (平成国際大)	29.03.96
⑦M. ゴッドフリー (駿河台大)	29.05.47
⑧伊地知賢造 (國學院大)	29.31.20

●110mH (-0.9)・16日

①村竹ラシッド (順天堂大)	13.04
=日本学生新, 日本タイ, 大会新	
②町 亮汰 (国際武道大)	13.72
③西 徹明 (早稲田大)	13.81
④小池 綾 (法政大)	13.88
⑤宮崎 匠 (中央大)	13.90
⑥阿部竜希 (順天堂大)	13.91
⑦可児将大 (日本大)	14.05
⑧近藤翠月 (東海大)	14.09

●400mH・17日

①小川大輝 (東洋大)	48.91
②豊田 兼 (慶應義塾大)	48.91
③金本昌樹 (早稲田大)	49.31
④出口晴翔 (順天堂大)	49.59
⑤陰山彩大 (日本大)	49.98
⑥内藤源一郎 (大阪教育大)	50.09
⑦田中天智龍 (早稲田大)	50.13
⑧深町飛太 (城西大)	51.18

●3000m S C・17日

①村尾雄己 (順天堂大)	8.43.07
②大吉優亮 (帝京大)	8.43.12
③花谷そら (福岡大)	8.48.02
④諸富 湧 (早稲田大)	8.49.29
⑤大園倫太郎 (鹿屋体育大)	8.49.54
⑥湯田陽平兵 (法政大)	8.53.74
⑦安達京摩 (国士館大)	8.55.89
⑧北村 光 (早稲田大)	8.58.11

●10000m W・16日

①立岩和太 (順天堂大)	41.36.43
②吉川鞠斗 (東京学芸大)	41.42.60
③石田理人 (東洋大)	42.05.93
④下池将多郎 (順天堂大)	42.20.47

⑤岩井和也 (日本大)	42.40.04
⑥渡邊 遊 (大阪大)	42.46.77
⑦萬壽春輝 (順天堂大)	43.34.90
⑧鈴木智大 (名古屋大)	43.42.41

●4×100m R・15日

①東洋大 (成島, 大石, 中村, 柳田)	38.94
②早稲田大 (千田, 稲毛, 島田, 西)	39.01
③明治大 (松下, 木村颯, 川津, 木村稜)	39.03
④筑波大 (先本, 池田, 鶴澤, 久保井)	39.12
⑤慶應義塾大 (中島, 三輪, 廣木, 豊田)	39.13
⑥法政大 (赤堀, 林, 田中, 田原)	39.23
⑦関西大 (宮内, 松井, 濱田, 山田)	39.34
順天堂大 (木梨, 海老澤, 宇野, 小池)	失格

●4×400m R・17日

①東洋大 (小川, 鈴木, 白木, 中島)	3.04.08=大会新
②筑波大 (林, 吉川, 紺野, 今泉)	3.04.52
③日本大 (井上, 陰山, 林, 菊田)	3.05.50
④城西大 (森, 野中, 北澤, 佐々木)	3.05.58
⑤法政大 (鈴木, 富田, 木下, 水口)	3.06.91
⑥関西学院大	3.07.12

(山田, 青西, 内野々, 安藤)
⑦福岡大 3.07.94
(早田, 福嶋, 山下, 藤本)
⑧早稲田大 3.10.26
(眞木田, 西, 新上, 金本)

●走高跳・17日

①山中 駿 (京都大) 2.21
②原口颯太 (順天堂大) 2.18
③坂井宏和 (東海大) 2.15
④芥川晃希 (鹿屋体育大) 2.15
⑤高田遼雅 (日本大) 2.15
⑥杉原哲平 (福岡大) 2.10
〃永島将貴 (福岡大) 2.10
〃武政壮之助 (筑波大) 2.10

●棒高跳・15日

①柄澤智哉 (日本体育大) 5.30
②古澤 生 (筑波大) 5.30
③原口篤志 (東大阪大) 5.30
④小暮七斗 (東海大) 5.20
⑤松井楓雅 (日本体育大) 5.20
⑥松井駿斗 (筑波大) 5.20
⑦小田祐己 (育英大) 5.20
⑧吉田陸哉 (関西大) 5.10

●走幅跳・15日

①鳥海勇斗 (日本大) 8.07(+0.8)
②藤原孝輝 (東洋大) 8.05(+1.2)
③新留 陸 (国際武道大) 7.84(+3.9)
④梅谷太紀 (中京大) 7.62(+3.8)
⑤田中隆太郎 (順天堂大) 7.61(+1.0)
⑥北川 凱 (東海大) 7.54(+1.0)
⑦海鋒泰輝 (日本大) 7.51(+0.7)
⑧熊谷 魁 (秋田大) 7.45(+0.4)

●三段跳・16日

①宮尾真一 (東洋大) 15.83(+0.1)
②田中宏祐 (順天堂大) 15.82(+0.3)
③金井晃希 (順天堂大) 15.74(+1.4)
④北川 凱 (東海大) 15.65(+1.0)
⑤安立雄斗 (福岡大) 15.52(+0.3)
⑥深井敦史 (九州共立大) 15.49(+0.5)
⑦梶 慎介 (京都大) 15.49(+0.3)
⑧外村直之 (東京学芸大) 15.40(+0.1)

●砲丸投・15日

①アツオビン・ジェイソン (福岡大) 18.18
=大会新
②山田暉斗 (法政大) 17.50
③福田翔太 (日本大) 16.93
④池田大晟 (鹿屋体育大) 16.69
⑤宮崎剛瑠 (東海大) 16.43
⑥渡辺豹牙 (新潟医療福祉大) 16.00
⑦下浦大輝 (日本体育大) 15.68
⑧甲斐雄也 (東海大) 15.60

●円盤投・17日

①山下航生 (九州共立大) 55.40
②鴨澤青海 (東海大) 53.85
③藤原孝史朗 (九州共立大) 53.23
④飛川龍雅 (東海大) 52.88
⑤北原博仁 (新潟医療福祉大) 52.11
⑥中町真澄 (新潟医療福祉大) 51.89
⑦濱口泰河 (日本体育大) 48.72
⑧小林 真 (国士館大) 48.28

●ハンマー投・16日

①福田翔太 (日本大) 72.01=大会新
②小田航平 (九州共立大) 70.39
③山川親心 (中京大) 66.79
④垂井祐志 (四国学院大) 64.25
⑤岡田大志 (順天堂大) 64.15
⑥川合隆誠 (順天堂大) 63.73
⑦久門大起 (日本大) 63.43
⑧坂 耀介 (東海大) 63.25

●やり投・15日

①鈴木 凜 (九州共立大) 78.71
②中村竜成 (国士館大) 74.08
③清川裕哉 (東海大) 73.00
④山田隼人 (九州共立大) 72.86
⑤堤光太郎 (筑波大) 71.09
⑥水落慶吾 (金沢大) 69.83
⑦朝田康聖 (大阪教育大) 69.57
⑧伊藤達也 (慶應義塾大) 68.40

●十種競技・15~16日

①前川啓幸 (中京大) 7189
[11.06(-0.2)-6.48(-0.2)-12.10-1.90-51.25 / 15.08(-0.9)-33.25-4.60-61.71-4.46.09]
②三浦徹大 (日本大) 7110
[10.98(-0.2)-6.84(+1.5)-12.49-1.70-50.50 / 15.19(-0.9)-38.39-4.50-54.16-4.48.43]
③田中康治郎 (新潟医療福祉大) 7055
[10.90(-0.2)-7.13(+0.1)-10.82-1.70-49.31 / 14.83(-0.1)-29.67-4.60-50.66-4.39.29]
④穂刈康人 (東京学芸大) 7032
[11.02(-0.2)-7.00(+1.5)-10.82-1.80-49.96 / 15.20(-0.9)-35.06-4.30-

52.19-4.41.45]
⑤池田 皇 (国士館大) 7020
[11.00(-0.2)-6.69(+0.6)-12.73-1.85-50.45 / 16.10(+0.1)-34.79-4.30-53.03-4.39.12]
⑥市川翔太 (筑波大) 7005
[11.48(+0.3)-6.95(+1.5)-11.80-1.85-51.37 / 15.40(+0.1)-36.16-4.20-59.06-4.45.94]
⑦田中陽介 (大阪教育大) 6937
[10.81(+1.3)-6.61(+0.9)-12.02-1.80-49.78 / 15.07(-0.9)-29.43-4.20-54.75-4.48.87]
⑧岡 泰我 (国士館大) 6934
[11.42(+0.3)-6.72(+0.4)-11.94-1.85-52.89 / 15.17(-0.1)-34.22-4.20-57.39-4.35.43]

■男子総合

①順天堂大 94点
②東海大 62点
③東洋大 61.5点
④日本大 60点
⑤筑波大 51点
⑥早稲田大 44点
⑦九州共立大 37点
⑧福岡大 26点

女 子

●100m (-0.3)・15日
①蔵重みう (甲南大) 11.76
②岡根和奏 (甲南大) 11.78
③奥野由萌 (甲南大) 11.81
④三浦由奈 (筑波大) 11.88
⑤城戸優来 (福岡大) 11.94
⑥三浦愛華 (園田学園女子大) 12.00
⑦田路遥香 (中央大) 12.01
⑧板里奈波 (日本女子体育大) 12.05

●200m (±0)・17日
①森山静穂 (福岡大) 23.84
②井戸アビゲイル風果 (甲南大) 24.03
③城戸優来 (福岡大) 24.36
④蔵重みう (甲南大) 24.37
⑤田島美春 (福岡大) 24.49
⑥奥野由萌 (甲南大) 24.50
⑦三浦由奈 (筑波大) 24.70
⑧三浦愛華 (園田学園女子大) 25.13

●400m・15日
①森山静穂 (福岡大) 53.83
②安達美鈴 (園田学園女子大) 53.87
③井戸アビゲイル風果 (甲南大) 54.44
④中尾柚希 (園田学園女子大) 54.45
⑤飯田景子 (中央大) 55.46
⑥児島柚月 (立命館大) 55.81
⑦森山奈菜絵 (日本体育大) 56.22
⑧金子ひとみ (青山学院大) 56.28

●800m・17日
①渡辺 愛 (園田学園女子大) 2.07.89
②長谷川麻央 (京都教育大) 2.08.43
③江藤 咲 (環太平洋大) 2.08.63
④原 華澄 (大阪体育大) 2.08.99
⑤窪 美咲 (東大阪大) 2.09.06
⑥吉田詩史 (日本体育大) 2.09.16
⑦ヒリアー紗瑠苗 (青山学院大) 2.10.28
⑧渡部鈴夏 (鹿屋体育大) 2.10.47

●1500m・15日
①櫻原沙紀 (筑波大) 4.19.54
②吉井優唯 (大東文化大) 4.20.37
③田島愛理 (順天堂大) 4.21.24
④小林舞香 (環太平洋大) 4.22.40
⑤原 華澄 (大阪体育大) 4.24.86
⑥木下紗那 (中央大) 4.25.12
⑦小暮真緒 (順天堂大) 4.26.19
⑧兼子心晴 (城西大) 4.26.79

●5000m・16日
①山崎りさ (日本体育大) 15.47.16
②S. ワンヅル (大東文化大) 15.54.63
③野田真理耶 (大東文化大) 15.58.49
④小川陽香 (立教大) 15.59.57
⑤保坂晴子 (日本体育大) 16.09.61
⑥高橋 葵 (城西大) 16.22.47
⑦浅葉夢七 (関西大) 16.22.47
⑧馬野萌々香 (大東文化大) 16.22.58

●10000m・14日
①S. ワンヅル (大東文化大) 33.18.93
②宮原なな佳 (福岡大) 34.01.46
③北川星瑠 (大阪芸術大) 34.02.34
④福永楓花 (立命館大) 34.11.76
⑤原田紗希 (名城大) 34.15.57
⑥村山愛美沙 (東北福祉大) 34.17.29
⑦谷本七星 (名城大) 34.18.15
⑧永長里緒 (大阪学院大) 34.18.30

●100mH (+1.3)・16日
①島野真生 (日本体育大) 13.31
②長崎さゆり (青山学院大) 13.32

③田中きよの (駿河台大) 13.32
④伊藤彩香 (福岡大) 13.41
⑤安藤愛未 (至学館大) 13.52
⑥高橋亜珠 (筑波大) 13.55
⑦樟垣真由 (関西学院大) 13.59
⑧川越美咲 (法政大) 13.62

●400mH・17日

①川村優佳 (早稲田大) 58.33
②大川寿美香 (早稲田大) 58.71
③辻井美緒 (大阪教育大) 58.74
④益子芽里 (中央大) 58.74
⑤青木穂花 (青山学院大) 58.75
⑥高野七海 (福岡大) 59.15
⑦津川瑠衣 (早稲田大) 59.56
山本亜美 (立命館大) 棄権

●3000m S C・17日

①山田桃愛 (玉川大) 10.06.30
②山下彩菜 (大阪学院大) 10.11.45
③山本悠紀奈 (筑波大) 10.15.71
④川瀬真由 (大東文化大) 10.18.76
⑤山田春佳 (大東文化大) 10.32.18
⑥白石優佳 (玉川大) 10.34.59
⑦齋藤みう (日本体育大) 10.36.91
⑧齋部七子 (同志社大) 10.38.16

●10000m W・15日

①下岡仁美 (同志社大) 45.59.45
②柳井綾音 (立命館大) 46.50.70
③内藤未唯 (神奈川大) 47.20.88
④石田さつき (武庫川女子大) 48.07.27
⑤山岸芽生 (中京大) 48.14.35
⑥近藤葉香 (金沢学院大) 48.34.75
⑦岡本瑠香 (中京大) 48.38.16
⑧中村綾花 (日本体育大) 48.43.32

●4x100m R・15日

①甲南大 44.72
(蔵重, 岡根, 井戸, 奥野)
②福岡大 44.87
(伊藤, 森山, 田島, 城戸)

③日本体育大 45.49
(西村, 工藤, 宮武, 綿貫)
④早稲田大 45.53
(露, 山越, 大川, 中村)
⑤青山学院大 45.55
(堀出, 石川, 倉橋, 佐藤)

⑥法政大 45.65
(川越, 川中, 熊谷, 佐藤)
⑦中央大 45.75
(田路, 久保田, 深澤, 吉永)
⑧筑波大 45.77
(泉山, 三浦, 森, 高橋)

●4x400m R・17日
①園田学園女子大 3.36.71=大会新
(中尾, 渡辺, 栞尾, 安達)
②福岡大 3.37.41
(高野, 田代, 城戸, 森山)
③早稲田大 3.37.65
(山越, 川村, 津川, 清水)

④日本体育大 3.38.00
(佐々木, 須藤, 吉田, 森山)
⑤立命館大 3.38.50
(児島, 工藤, 吉岡, 山本)
⑥青山学院大 3.39.75
(谷口, 金子, 高島, 青木)

⑦法政大 3.42.02
(川中, 佐藤, 中野, 熊谷)
⑧山梨学院大 3.45.47
(藤崎, 大野梨, 阿部, 大野瑞)

●走高跳・16日

①細田弥々 (日本体育大) 1.76
②松本万鈴 (甲南大) 1.76
③岸本志恵 (日本女子体育大) 1.73
〃井上紗耶加 (大阪体育大) 1.73
〃諸隈あやね (日本女子体育大) 1.73
⑦八重澄澄佳 (筑波大) 1.73
⑧齋藤優羽 (育英大) 1.70

●棒高跳・15日

①台信 愛 (日本体育大) 4.00
②大坂谷明里 (園田学園女子大) 4.00
③新田奈葉子 (東京学芸大) 3.90
④小林美月 (日本体育大) 3.90
⑤村田空音 (筑波大) 3.80
〃森 陽菜 (園田学園女子大) 3.80
⑦若林人生 (福岡大) 3.80
⑧福田紅葉 (中京大) 3.70
〃高橋美智子 (東京女子体育大) 3.70

●走幅跳・16日

①木村美海 (四国大) 6.10(+0.7)
②齋藤 遥 (武庫川女子大) 6.05(+0.6)
③桑くるみ (筑波大) 6.04(+0.9)
④本田姫星 (仙台大) 6.03(+1.0)
⑤吉岡里紗 (中央大) 6.01(+0.3)
⑥五百蔵美希 (日本大) 5.98(+0.1)
⑦榎本樹羅 (立命館大) 5.87(+0.4)

⑧白土莉紅 (日本大) 5.84(+0.9)
●三段跳・17日
①船田茜理 (武庫川女子大) 13.49(± 0)
②岸野美雨 (四国大) 12.94(+0.7)
③齋藤 遥 (武庫川女子大) 12.85(+0.1)
④鴨下若菜 (日本体育大) 12.74(-1.8)
⑤廣瀬桃奈 (園田学園女子大) 12.71(-0.8)
⑥宮繁愛葉 (武庫川女子大) 12.65(-2.0)
⑦小寺波音 (日本女子体育大) 12.62(-0.7)
⑧大崎美都 (大阪教育大) 12.61(-0.2)

●砲丸投・15日

①久保田亜由 (九州共立大) 15.07
②村瀬こ (九州共立大) 14.88
③今西あかり (九州共立大) 14.82
④江夏涼香 (福岡大) 14.35
⑤三反田理央 (鹿屋体育大) 14.18
⑥秋山愛莉 (福岡大) 13.98
⑦谷口梨瑠 (日本体育大) 13.98
⑧武田光里 (順天堂大) 13.77

●円盤投・17日

①齋藤真希 (東海大) 53.77
②西山藍那 (筑波大) 46.44
③中瀬綺音 (大阪体育大) 46.10
④桑島弥々 (九州共立大) 45.28
⑤城間歩和 (九州共立大) 44.77
⑥松田彩夢 (東海大) 43.93
⑦アヒンバレ・ティナ (筑波大) 43.64
⑧四役ひかり (順天堂大) 43.15

●ハンマー投・16日

①村上上花 (九州共立大) 64.03
=大会新
②勝沼玲海 (九州共立大) 59.18
③奥村梨里佳 (九州共立大) 58.45
④コンボン・ミンガモン (流通経済大) 58.18
⑤西村 南 (京都産業大) 58.08
⑥杉山文美 (岐阜協立大) 56.79
⑦竹谷 陸 (大阪体育大) 56.21
⑧五十川利心 (大阪体育大) 55.31

●やり投・15日

①兵藤秋穂 (筑波大) 56.05
②篠田佳奈 (京都大) 55.48
③木村玲奈 (新潟医療福祉大) 53.55
④齋藤乃彩 (筑波大) 53.12
⑤中村 怜 (東大阪大) 52.42
⑥山崎絢音 (明治国際医療大) 51.54
⑦村上碧海 (日本体育大) 51.30
⑧堀内律子 (筑波大) 50.39

●七種競技・16~17日

①田中友梨 (至学館大) 5391
[14.35(+1.1)-1.55-11.83-25.95(+1.1) / 5.39(-0.3)-49.61-2.20.93]
②松下美咲 (中央大) 5222
[13.70(+1.1)-1.60-10.54-25.34(+1.1) / 5.55(-0.9)-34.45-2.24.16]
③前田椎南 (九州共立大) 5205
[13.80(+1.1)-1.63-10.05-25.19(+1.1) / 5.40(+0.1)-35.77-2.24.15]

④濱口実玖 (国士館大) 5141
[14.59(+0.1)-1.63-12.01-26.15(+1.0) / 5.18(+0.2)-41.51-2.27.67]
⑤大菅紗矢香 (中京大) 5101
[14.04(+1.1)-1.45-12.31-25.98(+1.1) / 5.24(± 0)-41.46-2.24.76]

⑥水谷佳歩 (中京大) 5061
[14.23(+1.1)-1.66-10.66-26.26(+0.2) / 5.22(+0.4)-33.58-2.22.02]
⑦大熊 楓 (東京女子体育大) 5048
[13.81(+1.1)-1.55-11.80-26.03(+1.1) / 5.32(+0.9)-38.87-2.35.30]

⑧酒井響子 (東京女子体育大) 5038
[14.43(+0.9)-1.60-10.63-26.40(+1.1) / 5.16(-0.6)-42.17-2.26.45]

■女子総合

①日本体育大 69点
②福岡大 69点
③筑波大 59.5点
④甲南大 57点
⑤九州共立大 57点
⑥園田学園女子大 46.5点
⑦大東文化大 38点
⑧武庫川女子大 29点

【会議報告】

第59回理事会

1. 開催された日時

令和5年5月20日(日)16時06分から17時54分まで

2. 開催された方法

ZoomによるWEB会議

3. 理事総数及び定足数

現在数22名、定足数12名

4. 出席理事数 18名

(出席)有吉 正博、小倉 幸雄、片平 誠人、

蒲原 一之、北井 敏雄、木下 澄雄、

工藤 洋治、黒須 雅弘、障子 恵、

関根 春幸、鶴崎 健一、永井 純、

長澤 光雄、日隈 広至、福島 洋樹、

松本 正之、安井 年文、山下 誠

(出席監事)細萱 智大、山本 俊樹

(欠席)植田 恭史、岡崎 朋美、小林 聖子、

杉山 喜一

(オブザーバー)岡田 晃、河野 匠、

増田 憲二

5. 議題

【協議事項】

第1号議案 令和4年度事業報告及び決算(案)について

第2号議案 特定費用準備資金計画について

第3号議案 令和5年度会員入会の承認(普通会员/正会員)について

第4号議案 令和5年度主催事業理事・監事派遣計画について

第5号議案 競技会における学生審判員・学生補助員の交通費支給について

第6号議案 海外派遣(世界大学クロスカントリー)について

第7号議案 その他

【報告事項】

第1号議案 会務報告について

第2号議案 WUG派遣手続きの状況について

第3号議案 出雲駅伝について(IVYリーグの招聘・中国四国学連選抜チーム)

第4号議案 WUGアディショナルコーチ(ATO)について

第5号議案 その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長及び議事録署名人の選出

議長：松本正之会長

議事録署名人：代表理事／松本正之、有吉正博、

監事／山本俊樹、細萱智大

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

【協議事項】

第1号議案【令和4年度事業報告及び決算について】

永井純専務理事、大西清司事務局長及び山本俊樹常任監事より令和4年度事業報告及び決算の承認について提案があった。

- 2022年度は有観客での大会の開催、対面による理事会の開催などこれまでの制約を緩和しつつ、コロナ禍前の運営を目指した1年であった。主催競技会は緩和に向けた計画通りの実施となったが、世界大会の派遣に関してはFISU-WUGが選手・スタッフ内定後に再び延期となり、JOCへの手続きが空振りに終わった。選考の段階においてFISU-WUGと世界陸上両方を目指す学生にとっては、渡航日程が確定しない等の不透明な状態となり、ゼロコロナ政策を掲げる中国における開催の難しさが露呈した。
- 2021年から延期となっていたWUGの日本代表選手選考のため、通常6月の第2週に開催する日本学生個人選手権を4月に移動し、競技会後に選手・役員を内定したものの再び延期となった。
- 従来7月に開催していた実業団・学生対抗選手権大会はWUG及び世界陸上の日程を考慮して、8月1週に開催した。
- 第91回日本インカレは、「たけびしスタジアム京都」にて69年ぶりに京都市にて、かつ3年ぶりに有観客で開催した。また、赤字の圧縮に向け、入場料を1000円から2000円にした。
- 駅伝大会では感染症対策を講じながらより通常通りの開催となった。出雲駅伝に関してはIVYリーグの招聘は見送る形となった。ただし、2023年度は招聘する予定である。

- 2023年に入ってからWUGの再延期になったことからロード種目の代表選考会を行った。男子は立川シティハーフと併催、女子は4年ぶりに行われた松江レディースハーフマラソンと併催し、代表者3名を内定した。日本学生20km競歩・全日本競歩(能見競歩)と共催で行い、男子3名を内定した。
- 育成事業に関しては、コロナウイルスのため海外大会への派遣は時期尚早と判断し、派遣を行わなかった。審判事業に関しては、各地区で通常通りの講習会が開催され、B級審判員の養成及び資格取得を行った。指導者会議は3年ぶりに対面とZoomを併用して行った。
- 調査・研究部門においては本年もtoto助成金をいただき年3回の陸上競技研究の発行を実施した。共催の陸上競技学会に関しては、昨年のオンライン実施から対面での実施となった。

続いて大西清司事務局長より令和4年度収支決算について説明があった。

(収支決算書について)

普通会員の増加、日本インカレのエントリー数増加、値上げにより事業活動収益は対前年16,403,818円増。事業活動支出においては個人選手権、実学対抗、出雲駅伝の再開に伴う旅費や食糧費等の支出が増えたことにより対前年5,656,230円増となり、収支としては10,630,362円の黒字決算となった。

(貸借対照表について)

【資産の部】合計190,024,010円

【負債の部】合計15,923,884円

(正味財産増減計算書について)

経常収益および経常費用について説明があった。

(監査報告)

続いて、山本俊樹監事より4月28日に日本学連事務局において監査を実施した結果、計算書類及び付属明細書並びに財産目録については正しく記載されており、法令・定款に違反する事項は存在しなかった旨、また、事業報告において法令・定款に違反する事項並びに不当な事実が存在しなかった旨の報告があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案【特定費用準備資金計画について】

大西清司事務局長より資料に基づき、特定費用準備資金計画について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事

全員一致で可決した。

第3号議案【令和5年度会員入会の承認(普通会員)について】

永井純専務理事より資料に基づき、令和5年度会員入会の承認(普通会員)について提案があった。正会員は定款により135名になっている。現時点での登録者は17,035人である。このペースでいくと19,000人から20,000人になると推測する。地区学連だけではなく日本学連も会員増加に努める必要がある。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第4号議案【令和5年度主催事業理事・監事派遣計画について】

永井純専務理事より資料に基づき、令和5年度主催事業理事・監事派遣計画について提案があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案【競技会における学生審判員・学生補助員の交通費支給について】

永井純専務理事より競技会における学生審判員・学生補助員の交通費支給について提案があった。日本インカレの入場料を値上げした際に、赤字補填の目的もあったが、学生審判員・補助員に少しでも交通費を渡したいという気持ちがあった。詳細についてはまだ決定していない。支給する方向で進めてよいかご審議を願いたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第6号議案【海外派遣(世界大学クロスカントリー)について】

永井純専務理事より海外派遣(世界大学クロスカントリー)について資料に基づいて提案があった。来年の2月にオマーンのマスカットで開催される世界大学クロスカントリーに派遣をしたいと思っている。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第7号議案【その他】

特になし

【報告事項】

①前回理事会以降の会務の報告(資料)

永井純専務理事より資料に基づき職務執行について報告があった。また、障子恵総務委員長から個人選手権で検温・手指消毒を行わずに開催したこと及び迷惑撮影に関して、今後は申請の方法を考えること、

一般の方の撮影をご遠慮いただくことも検討している。

② WUG 派遣手続の状況について

山下誠強化委員長および崎井優希菜幹事長より WUG 派遣手続の状況について報告があった。日本選手権後に最終決定となっているが、その時点で選手を入れ替える際には JOC の派遣手続きを終えていることが条件であるため、内定選手及び補欠選手の手続きを進めている。エントリーする際に、リレー等を兼ねる種目を短距離は安井先生、長距離は米田先生が最終的な調整をしている。リレーの合宿及び長距離の合宿を行う予定である。個人ビザ申請が必須のため、日程調整を進めている。

③ 出雲駅伝について (IVY リーグの招聘・中国四国学連選抜チーム)

永井純専務理事より出雲駅伝について (IVY リーグの招聘・中国四国学連選抜チーム) 報告があった。今年の出雲駅伝は IVY リーグを招聘する方向で進めている。また、中国四国学連会長より中四国選抜チームの出場希望書が出された。この要望書を出雲市にお送りした。今年度の予算編成が既に終了していることから来年度以降の検討となった。

④ WUG アディショナルコーチ (ATO) について

永井純専務理事より WUG アディショナルコーチ (ATO) について報告があった。2 名の ATO を申請していたところ、2 名とも認められた。1 名は長距離の法政大学の坪田智夫さん、もう 1 名は渉外担当で崎井幹事長を派遣する。

⑤ その他

・全日本大学女子駅伝の選考会について

永井純専務理事より全日本大学女子駅伝の選考会について報告があった。九州学連は出場枠を 1 枠持っているが、選考会のエントリーが福岡大学のみであった。去年は 2 枠持っていたが、エントリーが 1 チームだったため、もう 1 つの枠は記録で選ぶ枠に回した。日本学連は枠を渡し、渡された枠は地区学連で責任をもって推薦してもらうスタイルをとっている。去年の例を鑑みて、今年の福岡大学の推薦を承認した。

・日本陸連・功労章について

永井純専務理事より日本陸連・功労章について報告があった。日本学連からの推薦として、功労章は強化委員長を長く勤めてくださった金子今朝秋さんが選ばれた。

・7 月～事務職員臨時雇用について

大西清司事務局長より 7 月～事務職員臨時雇用について報告があった。朝比奈が 7 月より産休に入る。この 2 ヶ月いろいろな方に相談し人材を探していた。しかしながら、まだ決まっていない状況である。事務局運営に支障がないよう引き続き対応して行く。

・6 月 10 日開催の定時社員総会について

3 月の理事会の決議に基づき、既に開催の通知を郵送させていただいているが、対面で実施するのでご了承願いたい。

以上をもって議案の審議等を終了したので、17 時 54 分、議長は閉会を宣し、解散した。

【概要】

2020年初頭から始まった新型コロナウイルス感染症は、弱毒化の一端を垣間見るも、本年もその対策に重点を置いた活動となり、まだまだ影響が残る1年となった。

本連合の事業については、有観客の競技会運営、対面による理事会など、制約を緩和しつつ、コロナ禍前の運営を目指した1年でもあり、多くの事業は緩和に向けた計画通りの実施となった。一方、世界大会の派遣に関しては、FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)(以下WUG)が再び延期されたこと、今回の延期決定のタイミングは、選手・スタッフが内定した後であったことや、選考の段階において、世界陸上と両方を目指す学生選手にとっては、渡航日程が確定しないなどの不安要素が存在し、中国における開催の難しさが露呈した形となった。また、東京オリピック延期の関係で、世界陸上競技選手権が1年遅れで2022年7月に米国のオレゴン州ユージーンで開催され、満員の観客が見守る中、多くの学連OB、現役学生選手が活躍した。

【公1-競技会】

2021年から延期となっていたWUG/陸上競技(6月30日～7月5日に開催)の日本代表選手選考のため、通常6月に開催する日本学生陸上競技個人選手権大会を4月へ移動した。競技会後に日本代表選手・役員を内定したものの、再び延期となったため、残念ながら内定をすべて解くこととした。また、従来7月に開催していた実業団・学生対抗陸上競技大会は、WUGや世界陸上のスケジュールを考慮し、8月1週に開催した。天皇賜盃第91回日本インカレは、京都市、たけびしスタジアム京都にて、69年ぶりに開催した。コロナは収束していない状況であったが、3年ぶりに有観客として開催、多くの入場者をお迎えし、盛会のうちに無事終了した。

10月に入り、ロードレースの幕開けとなる第34回出雲駅伝は、昨年に引き続きコロナ禍での開催となった。恒例となっていた歓迎レセプション、さよならパーティーなど、人気のサブイベントは時期尚早と判断。また、長年続いているIVYリーグの招聘も昨年に引き続き断念した。10月30日開催の全日本大学女子駅伝、11月6日開催の全日本大学駅伝、12月30日開催の全日本大学女子選抜駅伝(富士山女子駅伝)の3つの駅伝は、コロナ感染症対策を講じながらも駅伝ファンや応援団に配慮しながら、より通常開催に近づける運営で実施した。地元の理解や多く関係者の努力によって無事終了することができた。

2023年に入り、WUGが再延期となったことから、再度ロード種目の日本代表選手選考競技会としての準備をおこなった。皮切りとなる3月12日開催の第26回日本学生ハーフマラソン選手権大会(男子)は、立川シティーハーフマラソン大会との併催で実施。標準記録も設定しない従来の形でエントリーを受け付けた。予定通り3名のWUG日本代表選手を内定した。続く3月19日、松江レディースハーフマラソンは4年ぶりの開催となり、併催として第26回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会を実施し、男子同様3名の日本代表選手を内定した。また、同日に開催した全日本能美競歩/第17回日本学生20km競歩選手権も予定通り開催し、男子3名の日本代表選手を内定した。

【公2-育成】

育成事業においては新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年に引き続き海外派遣事業は時期尚早と判断、国内大会のクロカン日本選手権(併催)、東京マラソン学生エリート選手推薦は予定通り実現した。

審判員育成については、各地区において通常の講習会も実施されるようになりB級審判の養成、資格取得は順調に回復した。

指導者会議については、本年度68回を数え、2年連続Web会議システムにより実施していたが、本年は対面による開催とZOOMを併用して実施した。

テーマは、①【日本陸連の指導者養成の方向性について】山本浩先生(法政大学教授、日本陸上競技連盟 指導者養成委員長)②【裁判例に学ぶ陸上競技の安全対策】工藤 洋治先生(弁護士 本連合 常務理事)

【公3-調査研究】

調査研究事業においては、本年もtoto助成金をいただき、年3回の陸上競技研究の発行を無事終えた。共催の陸上競技学会については、昨年のオンラインの開催から今回は対面開催に戻って実施された。

【法人管理部門】

令和4年度の重要会議について、感染症対策の観点で、5月開催の第53回理事会はZOOMによるWeb会議とした。6月開催の定時社員総会およびその後の54回理事会については、役員改選のための会議であったことから、感染状況も判断材料に加え、対面による実施とした。この定時社員総会と理事会の決定により、令和4年度、5年度は、松本会長を中心に新しい体制でスタートすることとなった。日本インカレ前に開催する理事会(55回)は京都市で開催。12月の第56回理事会は日本学生新記録章の表彰も兼ね、都内の会議室にて開催した。本年度最終の第57回理事会は、コロナ感染症の影響も和らいだと判断し、新宿の会議室を利用し、対面およびZOOMの併用にて開催した。

日本学連の活動において重要な立場にある学生役員のための第48回幹部役員研修会は、3年ぶりに対面にて開催した。1泊2日の日程となったが、今回はコロナ前の3日間研修を目指し、より充実した研修を実現したい。

【普通会員の登録数】

令和4年度、普通会員登録者数は18,959名となった。令和3年度は18,567名であったことから、400名弱の増員となった。令和2年度の前年2000名を超える減少から少しずつ回復している状況となっている。20,000名の回復に向けては、少子化の影響も懸念されることから、何らかの努力も必要になってくると思われるが、まずは新型コロナウイルス感染症が収束し、ウイズコロナの中で日本学連の理念でもある「向上と進展」の精神のもと、さらなる増員を目指したい。コロナウイルス感染症が収束し、再び20000名を超える登録になることを目指したい。

事業の詳細

(1) 公1<競技会>

No.	競技会	期日	場所	種目数	参加校・競技者数	備考
1	2022日本学生陸上競技 個人選手権大会	2022年 4月15日(金) ～17日(日)	レモンガスタジアム 平塚 *ハンマー投げ/茅ヶ崎 /柳島スポーツ公園	男子18 女子18	男: 82校/505名 学連以外/26名 女: 78校/519名 学連以外/23名	大会新(8) 大会タイ(2) スポーツ振興基金助成金事業
2	(2022オールスターナイト陸上) 秩父宮賜杯 第62回実業団・学生対抗 陸上競技大会	2022年 8月6日(土)	平塚市 レモンガスタジアム 平塚	男子10 女子9	51名+51名 (オープン参加は含まず)	実業団186点男子96点女子90点 学生180点 男子97点女子83点 総合優勝チーム: 秩父宮賜杯、 内閣総理大臣杯 男子優勝チーム: 文部科学大臣杯 女子優勝チーム: 厚生労働大臣杯 大会新(4)、大会タイ(1)
3	天皇賜盃 第91回日本学生陸上競技 対校選手権大会	2022年 9月9日(金) ～11日(日)	たけびしスタジアム 京都	男子22 女子22	143校…1403名 117校… 954名	男子優勝校 順天堂大学(68点) 女子優勝校 日本体育大学(77点) 大会新(4)
4	第34回 出雲全日本大学選抜 駅伝競走	2022年 10月10日 (月/祝)	出雲市 45.1km 6区間		国内…20チーム	優勝 駒沢大 2時間08分32秒 2位 青山学院大 2時間09分24秒 ※優勝チームには内閣総理大臣杯、 文部科学大臣賞を授与
5	第40回 全日本大学女子駅伝 対校選手権大会	2022年 10月30日(日)	仙台市 38.0km 6区間		国内・25校+ 1チーム(東北選抜)	優勝: 名城大 2時間03分11秒 (6年連続7回目) 2位 立命館大 2時間05分42秒 ※優勝チーム: 文部科学大臣杯を授与
6	秩父宮賜杯 第54回全日本大学駅伝 対校選手権大会	2022年 11月6日(日)	名古屋市～伊勢市 106.8km 8区間		国内・25校+ 2チーム(東海選抜 /全日本大学選抜)	優勝 駒沢大 5時間6分47秒/大会新 (3年連続15回目の優勝) 2位 国学院大 5時間10分08秒/大会新
7	2022全日本大学女子選抜 駅伝競走	2022年 12月30日(金)	富士市・富士宮市 43.4km 7区間		国内…22単独チーム+ 全日本大学選抜+ 静岡県選抜) 計24チーム	優勝 名城大 2時間21分56秒 2位 大阪学院大 2時間25分07秒 ※優勝チーム: 文部科学大臣杯を授与
8	第26回日本学生ハーフマラ ソン選手権大会 兼ワールドユニバーシティ ゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2023年 3月12日(日)	立川市		エントリー: 1487名 完走: 906名	優勝: 篠原倅太郎(駒澤大) 1.02.16 2位: 吉田礼志(中央学院大) 1.02.29 3位: 松永 伶(法政大) 1.02.43
9	第17回日本学生20km競歩 選手権大会 兼ワールドユ ニバーシティゲームズ(2021 /成都) 日本代表選手選考 競技会	2023年 3月19日(日)	能美市		男/エントリー: 56名 女/エントリー: 29名	男子優勝 萬壽春輝(順天堂大) 1時間20分15秒 女子優勝 柳井綾音(立命館大) 1時間30分58秒
10	第26回日本学生女子ハーフ マラソン選手権大会 兼ワールドユニバーシティ ゲームズ(2021/成都) 日本代表選手選考競技会	2023年 3月19日(日)	松江市		エントリー: 86名 完走: 50名	優勝: 北川 星瑠(大阪芸大) 1:10:50 /大会新 2位: 永長里緒(大阪学院大) 1:11:03 3位: 原田紗希(名城大) 1:11:12
11	2022年 日本学生記録年鑑の発行	2023年 3月31日発行			1000部発行	主催競技会の記録、2022年50傑、歴代10傑他

(2) 公2<育成>

No.	競技会等	期日	場所	備考
1	秩父宮賜杯 第75回西日本学生陸上競技 対校選手権大会	2022年 7月1日(金) ～3日(日)	愛媛県総合運動公園陸上競技場	日本学連が共催。競技者育成を目的とし、補助金支給
	第44回北日本学生陸上競技 対校選手権大会	2022年 7月2日(土) ～3日(日)	札幌市厚別公園陸上競技場	日本学連が共催。競技者育成を目的とし、補助金支給
2	日本学連栄章贈与式/ 諸記録章 (日本学生新記録)	2022年 12月17日(土)	東京/新宿(T K P)	①不破 聖衣来(拓殖大学) 10000m/30分45秒21 2021/2/11 関西実業団ディスタンストライアル ②吉村 玲美(大東文化大) 3000m S C/9分39秒86 6/11 第106回日本陸上競技選手権大会 ③船田 茜理(武庫川女子大) 三段跳/13m81 8/7 第17回トワイライト・ゲームス

3	第106回日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走(日本学連共催)	2023年 2月26日(日)	福岡市／海の中道海浜公園 男子12km, 女子8km	男子最高：三浦 龍司(順天堂) 学生1位 連合杯獲得 ※29分28秒(日本選手権2位) 女子最高：北川 星瑠(大阪芸大) 学生1位 連合杯獲得 ※27分28秒(日本選手権4位)
4	第68回指導者会議	2023年 3月4日(土)	T K P 新宿／ZOOM 併催	①【日本陸連の指導者養成の方向性について】山本浩先生 (法政大学教授, 日本陸連指導者養成委員長) ②【裁判例に学ぶ陸上競技の安全対策】 工藤洋治先生(弁護士 本連合 常務理事)
5	東京マラソン2023 選手推薦	2023年 3月5日(日)	東京	新型コロナウイルスの影響によりエリート選手のみ推薦(4名)。 山野 力(駒澤大)、中山 雄太(日本薬科大) 嶋津 雄大(創価大)、佐藤 颯(亜細亜大)
6	新規B級審判員資格認定		各地	講習会は地区学連が開催
7	ドーピング・コントロール・テスト	3回	各地	検査実施大会 (日本学生個人, 日本IC、全日本大学女子駅伝)
8	知っておきたい アンチ・ドーピングの知識 2022発行	2022年1月1日	日本学連ホームページに公開	日本学連医事委員会編集

(3) 公3<調査研究>

No.	事業	期日・回数	場所	備考
1	日本陸上競技学会共催 (第21回)	2023年 2月22日(水) ～23日(祝)	日本体育大学	テーマ：陸上競技の強化と科学 温故知新
2	研究調査 『陸上競技研究』の発行	年3回／ 129～131号		(ISSN0919-9918) 日本学連調査研究委員会 2022／6／30、10／31 2023／2／28発行 ※スポーツ振興くじ助成金事業

(4) 法人管理部門<組織力管理>

No.	事業	期間・回数等	概要
1	理事会の開催	4回	第52回(4月18日) 第53回(5月14日) 第54回(6月18日) 第55回(9月8日) 第56回(12月17日) 第57回(3月4日)
2	定時社員総会の開催	1回	第14回定時社員総会(6月18日)、※令和4年度、5年度役員選任
3	会員の入会受付	2022年度	名誉会員 40名、正会員 135名、普通会員(学生) 18,959名
4	公認競技会開催申請及び 記録公認申請	2022年度	日本学連傘下の団体の公認競技会開催受付／ 日本陸連申請 日本学連傘下の団体の記録公認受付／日本陸連申請
5	会報の刊行	3回	各回1,000部(名誉会員、正会員、役員、委員会委員、賛助会員 地区学連加盟校に配布) 5月、10月、1月
6	ホームページの運営・公開	随時	事業計画、事業報告、計算書類等の公開、競技会等に関する情報提供、等
7	2022学生役員会議	2022年 12月17日(土)	1回開催(東京) 参加対象：各地区学連幹部学生役員
8	第48回学生幹部役員研修会	2023年 3月3日(金) ～4日(土)	オンラインシステムにて開催。参加対象：令和5年度各地区学連三役
9	学連情報の掲載	毎月	『月刊陸上競技』に掲載(各地区ヘッドコーチ、地区選出理事、専門委員長などが執筆)

資料

貸借対照表 令和5年3月31日現在

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	60,575,719	109,643,906	△ 49,068,187
未収金	2,335,000	4,569,460	△ 2,234,460
仮払金	22,684,291	1,124,410	21,559,881
流動資産合計	85,595,010	115,337,776	△ 29,742,766
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	25,000,000	25,000,000	0
秩父宮妃記念基金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	35,000,000	35,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	7,400,000	6,800,000	600,000
賞与引当資産	973,000	962,000	11,000
ユニバーシアード派遣事業積立資産	10,000,000	5,000,000	5,000,000
国際交流積立資産	8,000,000	8,000,000	0
競技会事業積立資産	32,000,000	32,000,000	0
世界大学クロスカントリー派遣積立資産	4,000,000	4,000,000	0
海外ロードレース遠征積立資産	4,000,000	3,300,000	700,000
創立100周年積立資産	3,000,000	2,500,000	500,000
特定資産合計	69,373,000	62,562,000	6,811,000
(3) その他固定資産			
電話加入権	56,000	56,000	0
その他固定資産合計	56,000	56,000	0
固定資産合計	104,429,000	97,618,000	6,811,000
資産合計	190,024,010	212,955,776	△ 22,931,766
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	1,374,630	344,121	1,030,509
預り金	6,176,254	41,379,891	△ 35,203,637
賞与引当金	973,000	962,000	11,000
流動負債合計	8,523,884	42,686,012	△ 34,162,128
2. 固定負債			
退職給付引当金	7,400,000	6,800,000	600,000
固定負債合計	7,400,000	6,800,000	600,000
負債合計	15,923,884	49,486,012	△ 33,562,128
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(うち基本財産への充当額)	10,000,000	10,000,000	0
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	164,100,126	153,469,764	10,630,362
(うち基本財産への充当額)	25,000,000	25,000,000	0
(うち特定資産への充当額)	61,973,000	55,762,000	6,211,000
正味財産合計	174,100,126	163,469,764	10,630,362
負債及び正味財産合計	190,024,010	212,955,776	△ 22,931,766

資料

正味財産増減計算書 令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	700	700	0
基本財産受取利息	700	700	0
特定資産運用益	1,692	1,732	△ 40
特定資産受取利息	1,692	1,732	△ 40
受取会費	35,663,200	36,019,600	△ 356,400
正会員受取会費	675,000	675,000	0
普通会员受取会費	34,126,200	33,420,600	705,600
賛助会員受取会費	250,000	1,150,000	△ 900,000
陸上研究誌受取会費	612,000	774,000	△ 162,000
事業収益	67,806,896	50,718,326	17,088,570
受取協賛金	22,478,163	23,631,396	△ 1,153,233
受取放映料	17,600,000	17,600,000	0
受取参加料	9,720,300	8,191,600	1,528,700
受取広告料	3,864,000	1,166,000	2,698,000
入場料等売上	14,144,433	129,330	14,015,103
受取補助金等	6,764,000	6,912,460	△ 148,460
受取助成金	6,564,000	6,712,460	△ 148,460
受取補助金	200,000	200,000	0
受取負担金	4,806,000	4,756,000	50,000
受取負担金	4,806,000	4,756,000	50,000
雑収益	351,278	581,130	△ 229,852
受取利息	738	689	49
雑収益	350,540	580,441	△ 229,901
経常収益計	115,393,766	98,989,948	16,403,818
(2) 経常費用			
事業費	99,024,665	93,348,680	5,675,985
給料手当	8,475,576	8,472,000	3,576
臨時雇賃金	325,200	295,200	30,000
退職給付費用	480,000	480,000	0
賞与引当金繰入額	778,400	769,600	8,800
福利厚生費	1,734,063	1,682,407	51,656
会議費	3,087,432	1,801,492	1,285,940
旅費交通費	27,343,939	21,407,023	5,936,916
通信運搬費	2,703,841	3,267,251	△ 563,410
消耗品費	2,654,577	2,268,604	385,973
備品費	9,276	397,254	△ 387,978
印刷製本費	8,004,697	8,458,007	△ 453,310
光熱水料費	90,760	82,787	7,973
食糧費	2,894,860	3,200,753	△ 305,893
賃借料	8,795,435	9,090,805	△ 295,370
リース料	299,904	319,459	△ 19,555
諸謝金	921,000	979,550	△ 58,550
表彰費	1,333,783	1,341,494	△ 7,711

科目	当年度	前年度	増 減
渉外費	39,141	42,500	△ 3,359
委託費	10,811,186	8,566,580	2,244,606
租税公課	1,349,824	1,264,120	85,704
支払負担金	16,345,449	18,254,070	△ 1,908,621
雑費	546,322	907,724	△ 361,402
管理費	5,738,739	5,758,494	△ 19,755
給料手当	2,118,893	2,118,000	893
臨時雇賃金	81,300	73,800	7,500
退職給付費用	120,000	120,000	0
賞与引当金繰入額	194,600	192,400	2,200
福利厚生費	433,515	420,601	12,914
会議費	249,704	147,266	102,438
旅費交通費	234,258	156,680	77,578
通信運搬費	564,180	544,150	20,030
消耗品費	8,706	6,094	2,612
備品費	5,684	243,478	△ 237,794
印刷製本費	264,503	351,793	△ 87,290
光熱水料費	90,760	82,790	7,970
賃借料	802,738	709,063	93,675
リース料	74,976	79,863	△ 4,887
渉外費	35,905	36,430	△ 525
委託費	49,755	85,081	△ 35,326
租税公課	337,456	316,030	21,426
雑費	71,806	74,975	△ 3,169
経常費用計	104,763,404	99,107,174	5,656,230
評価損益等調整前当期経常増減額	10,630,362	△ 117,226	10,747,588
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	10,630,362	△ 117,226	10,747,588
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	10,630,362	△ 117,226	10,747,588
一般正味財産期首残高	153,469,764	153,586,990	△ 117,226
一般正味財産期末残高	164,100,126	153,469,764	10,630,362
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	0	0
指定正味財産期首残高	10,000,000	10,000,000	0
指定正味財産期末残高	10,000,000	10,000,000	0
III 正味財産期末残高	174,100,126	163,469,764	10,630,362

資料

財産目録 令和5年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金	手元保管	運転資金として	190,631
	預金	普通預金		30,588,689
		三井住友銀行渋谷支店	運転資金として	16,119,350
		三井住友銀行渋谷支店8900029		11,688,831
		三井住友銀行渋谷支店8976649		1,363,539
		三井住友銀行渋谷支店9065238		1,416,969
		定期預金		23,000,000
	三井住友銀行渋谷支店 定期20932		23,000,000	
	振替貯金		6,796,399	
	渋谷千駄ヶ谷郵便局	運転資金として	6,796,399	
未収金			2,335,000	
仮払金			22,684,291	
流動資産合計			85,595,010	
(固定資産)	基本財産			35,000,000
	定期預金			25,000,000
特定資産	三井住友銀行渋谷支店 定期20932	公益目的保有財産である 法人運営財源として使用	12,500,000	
	三井住友銀行渋谷支店 定期20932		12,500,000	
	秩父宮妃記念基金	公益目的保有財産である	10,000,000	
	三井住友銀行渋谷支店 定期20932		10,000,000	
			69,373,000	
	退職給付引当資産		7,400,000	
	三井住友銀行渋谷支店 定期327127		7,400,000	
	賞与引当資産		973,000	
	三井住友銀行渋谷支店 普通9065249		973,000	
	ユニバーシアード派遣事業積立資産		10,000,000	
三井住友銀行渋谷支店 定期327138		10,000,000		
国際交流引当資産		8,000,000		
三井住友銀行渋谷支店 定期20932		8,000,000		
競技会事業引当資産	公益目的保有財産である	32,000,000		
三井住友銀行渋谷支店 定期20932		32,000,000		
世界大学クロスカントリー遠征積立資産		4,000,000		
三井住友銀行渋谷支店 定期327161		4,000,000		
海外ロードレース遠征積立資産		4,000,000		
三井住友銀行渋谷支店 定期327116		4,000,000		
創立100周年事業積立資産		3,000,000		
三井住友銀行渋谷支店 定期327149		3,000,000		
その他固定資産			56,000	
	電話加入権	公益目的事業に供している 法人運営に供している	28,000	
	電話加入権		28,000	
固定資産合計			104,429,000	
資産合計			190,024,010	
(流動負債)	未払金		1,374,630	
	預り金		6,176,254	
	賞与引当金		973,000	
	流動負債合計		8,523,884	
(固定負債)	退職給付引当金		7,400,000	
固定負債合計			7,400,000	
負債合計			15,923,884	
正味財産			174,100,126	

資料

執行役員による職務執行の状況報告(2023/3/4以降)

月 日	行 事 (報告内容)
3月4日(土)	第57回理事会 (TKP新宿カンファレンスセンター・ZOOMによるオンライン併催)
3月6日(月)	第63回実学対抗陸上競技／実業団2者準備ミーティング(ZOOM)によるオンライン会議
3月12日(日)	第26回日本学生ハーフマラソン選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(成都)日本代表選手選考競技会
3月18日(土)～19日(日)	第26回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(成都)日本代表選手選考競技会
3月18日(土)～19日(日)	第17回日本学生20km競歩選手権大会兼FISUワールドユニバーシティゲームズ(成都)日本代表選手選考競技会
3月20日(月)	ワールドユニバーシティゲームズ(以下WUG))選考委員会準備ミーティング(ZOOM)によるオンライン会議
3月23日(木)	2022富士山女子駅伝会計監査 於:日本学連事務所
3月23日(木)	2023日本学生個人選手権アウトリーチ業務打合せ(ZOOM)によるオンライン会議
3月27日(月)	全日本大学女子駅伝対校選手権大会実行委員会 於:仙台市及びオンライン会議併催
3月30日(木)	競技委員会 於:学連事務所/及び(ZOOM)によるオンライン会議併催
3月31日(金)	2023日本学生個人選手権番組編成会議 於:日本学連事務所
4月3日(月)	WUG選考委員会準備ミーティング(ZOOM)によるオンライン会議
4月4日(火)	WUG候補選手メディカルチェック 於:JISS
4月6日(木)	WUG候補選手メディカルチェック 於:JISS
4月7日(金)	2023日本学生個人選手権/平塚競技場打ち合わせ 於:平塚市
4月7日(金)	2023日本学生個人選手権/神奈川陸協打ち合わせ 於:神奈川陸協事務所
4月9日(日)	2023日本学生個人選手権/主任者会議 於:三沢競技場
4月10日(月)	WUG選考委員会準備ミーティング(ZOOM)によるオンライン会議
4月10日(月)	強化委員会 (ZOOMによるオンライン会議)
4月11日(火)	WUG候補選手メディカルチェック 於:JISS
4月14日(金)	WUG手続き説明会 JOCによるオンライン会議
4月17日(月)	富士山女子駅伝実行委員会 於:富士市教育プラザ及びZOOMによるオンライン会議併催
4月17日(月)	WUG選考委員会準備ミーティング(ZOOM)によるオンライン会議
4月18日(火)	令和4年度決算業務確定作業 於:日本学連事務所
4月20日(木)	2023日本学生陸上競技個人選手権大会 前日準備 於:平塚市
4月21日(金)～23日(日)	2023日本学生陸上競技個人選手権大会兼WUG日本代表選手選考競技会 於:平塚市
4月23日(日)	WUG日本代表選手選考委員会 於:グランドホテル神奈中
4月24日(月)	第54回全日本大学駅伝 代表者会議事前ミーティング(ZOOM)によるオンライン会議
4月24日(月)	第58回理事会(ZOOM)によるオンライン会議
4月26日(水)	財務委員会 於:日本学連事務所及びZOOMによるオンライン会議併催
4月28日(金)	令和4年度末監査 於:日本学連事務所
5月3日(水)～	全日本大学女子駅伝/新コース距離計測 於:仙台市
5月9日(火)	WUG メディカルチェック 於:JISS
5月10日(水)	企画委員会(ZOOM)によるオンライン会議
5月11日(木)	第54回全日本大学駅伝 小委員会/代表者会議(ZOOM)によるオンライン会議
5月11日(木)	富士山女子駅伝実行委員会事前準備ミーティング(ZOOM)によるオンライン会議
5月17日(水)	WUG候補選手メディカルチェック 於:JISS
5月18日(木)	出雲駅伝/組織委員会開催事前ミーティング 於:日本学連事務所
5月20日(土)	第59回理事会(ZOOM)によるオンライン会議

【会議報告】

第60回理事会

1. 開催された日時

令和5年6月10日(土)15時15分から16時15分まで

2. 開催された方法

TKP新宿西口カンファレンスセンター 8 D

3. 理事総数及び定足数

現在数22名、定足数12名

4. 出席理事数：17名

(出席)有吉 正博、植田 恭史、岡崎 朋美、

小倉 幸雄、片平 誠人、北井 敏雄、

木下 澄雄、工藤 洋治、黒須 雅弘、

杉山 喜一、関根 春幸、鶴崎 健一、

永井 純、日隈 広至、松本 正之、

安井 年文、山下 誠

(出席監事)山本 俊樹

(欠席)蒲原 一之、小林 聖子、障子 恵、

長澤 光雄、福島 洋樹

(欠席監事)細萱 智大

(オブザーバー)岡田 晃、河野 匠

5. 議題

【協議事項】

第1号議案 令和5年度常任幹事承認について

第2号議案 その他

【報告事項】

① FISU ワールドユニバーシティゲームズ(成都/2021)について

② 第63回実学対抗陸上について

③ 令和6年・令和7年の事業日程の検討

④ その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長：松本正之会長

議事録署名人：松本正之会長、有吉正博副会長、
山本俊樹監事

(3) 議案の審議状況及び議決結果等

【協議事項】

第1号議案【令和5年度常任幹事承認について】

永井純専務理事より、資料に基づき日本学連常任幹事の承認について提案があった。

桑原悠真(くわはら・ゆうしん 東京学芸大学1年)

及び村上奈穂(むらかみ・なほ 明治大学1年)より自己紹介。

審議の結果、提案内容を承認することを出席理事全員一致で可決した。

第2号議案【その他】

○山下誠常務理事より世界大学クロスカントリー(オマーン/マスカット)の選手選考について説明があった。

2024年2月17日～18日の日程で開催される当該大会について男女各4名を選考する。WUGに向けての強化を目的としているため2024年度の現役学生を対象とし、男子は92日本インカレの5000mと10000mで1名ずつと、インカレ終了後から12月末のシーズンベスト保有者から選考。女子は第92回日本インカレの10000mから1名を選考、残る3名を選考するため、11月の関東学連10000m記録挑戦競技会を選考競技会とできないか打診しているところである。

審議の結果、提案内容を承認することを出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

① FISU ワールドユニバーシティゲームズ(成都/2021)について

永井純専務理事と安井年文理事より資料に基づきWUG内定選手の交代について報告があった。200mの選手として内定していた鶴澤飛羽選手(筑波大学)の内定辞退を受け、稲毛碧選手(早稲田大学)を代表選手とした。鶴澤選手は日本選手権200mで優勝し世界陸上に選考される可能性が高くなったこと、また世界陸上のリレー要員として派遣記録突破を目標としたロンドンのダイヤモンドリーグへ出場する可能性が高くなったことから内定辞退の申し入れがあったため、補員として優先順位の高かった稲毛選手と入れ替えることとした。

② 第63回実学対抗陸上について

永井純専務理事より資料に基づき実学対抗のチームスタッフについて報告があった。

監督に山下誠常務理事、男子コーチに黒須雅弘理事、女子コーチに小倉幸雄理事、マネージャーに三浦拓也副幹事長に決定した。またグランプリシリーズ

に参入するためカテゴリーFからEに上がることであり、各種目実業団3名・学生3名で対校戦を行い、残る2枠を日本グランプリシリーズのエントリーとして実施する。

③令和6年・令和7年の事業日程の検討

永井純専務理事と大西清司事務局長より資料に基づき令和6年度・令和7年度の事業日程について報告があった。

令和6年(2024年)7月26日～8月12日の日程でパリオリンピックが開催される。また令和7年(2025年)は例年日本インカレを開催する時期に東京で世界陸上が開催されるため、94日本インカレの日程を調整する必要がある。

④その他

○安井年文理事より日本インカレの日程について提案があった。本年は3.5日間開催であるが、現在3日間開催が前提になっている。現場では3日間では種目を兼ねるのが大変であるため4日間にしてほしいという雰囲気があると感じており、調査研究委員として現場の選手等にアンケートを取ってはどうかという意見がある。

○永井純専務理事より日本インカレ等の競技会において学生補助員への交通費支給を検討していることの説明があった。既に関連の委員会関係者に

よって、検討会を実施した。詳細については今後再度検討会を開催して決定していきたい。

○北井敏雄理事より、関西インカレについて報告があった。今回の読売テレビのライブ配信では関西学連OBのゲスト解説をし、20万アクセスを突破した。またライブ配信が関西に進学を考えるきっかけになったか等をアンケート調査することを考えている。

また全日本大学駅伝の予選会もライブ配信し、解説に早稲田大学OBの竹澤健介さんを起用する。こういった活動で関西学連の加盟校を進学先として検討する一助になることを期待している。

○関根春幸常務理事より、WAルールの修改正について報告があった。長距離種目の予選は着取りのみとすること、投てき物の持ち込みが同じものも2個まで可能になること、レーンのある決勝種目で欠場者が出た場合には準決勝の記録から繰り上げをすること、となる。日本陸連が採用するかはこれからの検討であるが、地区学連に持ち帰り、ご意見いただきたい。WAでは8月19日の世界陸上から適用する。

以上をもって議案の審議等を終了したので、16時15分、議長は閉会を宣し、解散した。

【会議報告】

第15回社員総会

1. 開催された日時

令和5年6月10日(土) 14時00分から14時57分まで

2. 開催された場所

TKP新宿西口カンファレンスセンター8D

3. 正会員総数及び定数

現在数135名、定足数68名

4. 出席正会員数

114名(本人出席)36名(委任出席)78名(欠席)21名
(出席理事)17名

有吉 正博、植田 恭史、岡崎 朋美、小倉 幸雄、
片平 誠人、北井 敏雄、木下 澄雄、工藤 洋治、
黒須 雅弘、杉山 喜一、関根 春幸、鶴崎 健一、
永井 純、日隈 広至、松本 正之、安井 年文、
山下 誠

(出席監事)山本 俊樹

(欠席理事)蒲原 一之、小林 聖子、障子 恵、
長澤 光雄、福島 洋樹

(欠席監事)細萱 智大

5. 議題

【協議事項】

第1号議案：令和4年度(2022年度/第11期)事業・決算報告(案)について

第2号議案：その他

【報告事項】

- ①前回定時社員総会(令和3年6月)以降の会務報告
- ②令和5年度日本学連主催競技会の状況について
- ③FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)について
- ④その他

6. 議事の経過及びその結果

- (1) 定足数の確認
- (2) 議長及び議事録署名人の選出
議長：松本正之会長(定款第4章第16条第1項)
議事録署名人：松本正之会長、町田紀子、増田憲二(正会員)(定款第4章第20条第2項)
- (3) 議案の審議状況及び議決結果等

【協議事項】

第1号議案：令和4年度(2022年度/第11期)事業・決算報告(案)について

永井純専務理事より令和4年度事業及び決算報告の承認について提案があり、始めに資料に基づき令和4年度事業について説明があった。

続いて大西清司事務局長より令和4年度収支決算について説明があった。

最後に、山本俊樹監事より監査を実施した結果、計算書類及び付属明細書並びに財産目録については正しく記載されており、法令・定款に違反する事項は存在しなかった旨、また、事業報告において法令・定款に違反する事項並びに不当な事実が存在しなかった旨の報告があった。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席正会員全員一致で可決した

【報告事項】

①会務報告

永井専務理事より前回社員総会以降の一年間の会務報告の詳細に代わり11ある委員会の説明がされた。

②令和5年度日本学連主催競技会の状況について

永井専務理事より資料2に基づき令和5年度日本学連主催競技会について説明があった。

③FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都)について

山下誠常務理事よりWUGについて説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので、14時57分、議長は閉会を宣し、解散した。

【会議報告】

第61回理事会

1. 開催された日時

令和5年9月14日(木)13時00分から15時00分

2. 開催された場所

熊谷スポーツ文化公園陸上競技場内会議室(1階第3集会室)

3. 理事総数及び定足数

現在数22名、定足数12名

4. 出席理事数 17名

(出席)有吉 正博、小倉 幸雄、蒲原 一之、北井 敏雄、植田 恭史、木下 澄雄、工藤 洋治、黒須 雅弘、杉山 喜一、関根 春幸、鶴崎 健一、永井 純、長澤 光雄、日隈 広至、福島 洋樹、安井 年文、山下 誠

(出席幹事)山本 俊樹

(欠席理事)岡崎 朋美、片平 誠人、小林 聖子、障子 恵、松本 正之

(欠席監事)細萱 智大

(オブザーバー)岡田 晃、河野 匠

5. 議題

【協議事項】

第1号議案：第93回日本IC(令和6年)について

第2号議案：2024年世界大学クロスカントリー選手権大会選考要項について

第3号議案：駅伝大会に関する規約改定について(全日本大学女子駅伝)

第4号議案：普通会員について

第5号議案：2023年度勲功章受章者について

第6号議案：その他

【報告事項】

①会務の報告

②FISUワールドユニバーシティゲームズ(2021/ 成都)について

③2024年度・2025年度競技会カレンダーについて

④その他

6. 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認

(2) 議長及び議事録署名人の選出

議長：永井純専務理事

議事録署名人：有吉正博副会長、山本俊樹監事

(3) 議事の審議状況及び議決結果等

【協議事項】

第1号議案：第93回日本IC(令和6年)について

永井純専務理事により、資料に基づき第93回日本ICの開催地について提案があった。川崎市の等々力陸上競技場がサッカー専用競技場になることを受け、最後に陸上競技全国大会を開催したいとのこと。9月の1、2週目は他の行事の関係で難しいとのこと、3週目開催の方向で話が進んでいる。正式に決まったらホームページで発表する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第2号議案：2024年世界大学クロスカントリー選手権

(大会選考要項について)

山下誠理事・強化委員長より資料に基づき世界大学クロスカントリー選手権の選考要項について提案があった。従来通り入賞が見込まれること、今後の日本長距離界を担うことが期待され、学生トップレベルの競技力を有する競技者で編成する。男子は日本ICの5000mと10000mの8位入賞者から1名ずつ選出、加えて10000m記録上位者。女子は同じく日本ICの10000m8位入賞者から1名、関東学連の競技会を選考レースとして設定。それでも選びきれなかった場合は記録上位者。FISUの期日は決まっていないが年内には決めたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

この際、以下の通り質疑応答があった。

(黒須雅弘理事) 男女ともに2023年で大学3年生ということで、8位までの選手が外国籍や4年生であれば9位以下繰り上げはないのか？

(山下誠理事) ありません

第3号議案：駅伝大会に関する規約改定について

(全日本大学女子駅伝)

永井純専務理事より、資料に基づき駅伝大会に関する規約改定について提案があった。全日本大学女子駅伝のコースが変わることとなり、変わった場合は理事会で確認することになっている。

審議の結果、まだ実行委員会で最終決定はしていないことから、さらに変更があった場合はあらためて理事

会承認を得ることを確認し、出席理事全員一致で可決した。

この際、以下の通り質疑応答があった。

(工藤洋治理事) 区間記録がリセットされるのは何区になるのか？

(山下誠理事) 4区と5区は残って他は新しくなる。

(永井純専務理事) 変更点として今年から競技場が発着点となる。市役所前で行いたいという要望はあるが交通の関係で使えなかった。

第4号議案：普通会员について

永井純専務理事より、資料に基づき提案があった。8月31日現在19250名の登録となっている。4月30日時点より2215名増えた。20000名に向けて盛り返しているが、想定ではあと500名くらいで、目標には厳しい。各地区の理事の方はこれを見て分析していただきたい。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

第5号議案：2023年度勲功章受章者について

永井純専務理事より、資料に基づき提案があった。豊田兼、北川星瑠、柳田大輝をインカレ最終日に功労章と合わせて表彰する。

審議の結果、提案内容を承認することを、出席理事全員一致で可決した。

【報告事項】

①会務の報告

永井純専務理事より、資料に基づき前回理事会以降の会務について報告があった。

- 5月30日に行った新企画打合せについて、2025年、大阪万博を記念した大会を開催したいという相談があった。内容は2025年3月16日、万博記念駅伝(仮称)。50～60km、詳細は今後検討。学生及び実業団の男子チームによるレース。こういう駅伝が検討されているということだけお伝えする。
- WUGに関して、出発48時間前の抗原検査が必要で、陽性の場合は各競技団体に任せるということだったが、全員陰性であった。
- 盗撮防止に関するミーティング。これまで総務委員会中心に何年も見回ってもらった。大変な労力をかけたが、今後は取り締まりから抑止へと方針転換を行った。日本ICに向けては埼玉県が迷惑防止条例で取り組んでいることもあり、警察に挨拶に伺った。

(岡田晃総務副委員長) 今まで総務委員会で見回ったが逮捕権もない、警察の対応も難しかった。学生もお客さんみんなを盗撮犯のように見てしまう、盗撮犯から逆

に撮影されるといったことも起きていた。工藤理事とも相談させてもらった。埼玉県警、熊谷署に挨拶に行ったが、インカレ期間中にキャンペーンを行いたいという申し出と、4日間、私服警察が毎日2名競技時間中は見守ってもらえることとなった。私どもと学生は巡回のビブスをつけてまわる。大会期間中には大型ビジョンには30秒ほどの迷惑撮影防止に關してのCMを作成したので流していく。

(永井純専務理事) 地区インカレも同じような問題を抱えていると思うのでぜひ情報交換を行ってみたい。

- (関根春幸理事・競技委員長) 競技委員会報告。実業団・学生に関しては風の向きでレイアウトが臨機応変に変えられるように準備を進めた。
 - 日本インカレについて、競技日程等強化委員会と連携して進めたが、木曜からの開催を強く要望、実施に向け人員の確保、運営準備が大変厳しかった。熊谷の場合はハンマーも円盤も競技場内でやって良いということだが、囲いの設営のための人員確保が難しく、投てき場で行うこととした。長距離、競歩に関してはなかなか気温が下がらないので夕方にした。その他、駅伝に関して準備を進めているところ。
 - (岡田晃総務副委員長) 総務委員会報告。登録に関して、今年、都道府県の表示のところに学連であったり大学院の登録がないのに大学院とあったり表記の混乱があった。日本陸連の登録制度の変更に関して、陸連と学連ですりあわせの時間が取れないまま始まってしまったという問題と、システム上の問題での混乱があった。このインカレ期間中に、地区学連の幹事もきているので、紙にまとめてあらためて説明したいと思っている。委員長、総務委員会で確認して進めたい。
 - (工藤洋治理事) インカレのプログラムを見て、生年の情報があって学年の情報が入っていないのはなぜか。いちファンとして見るときに例えば同学年、大学院生の情報を知りたいという思いがある。
- (岡田晃総務副委員長) 記録の公認が1月1日～12月31日で決められている。WAの記録申請の時に何年生まれというのが必要なため西暦に変えた。過去、日本選手権でも生年になっている。情報はどちらも持っているので戻すことはできる。ただ、エントリーシステムを日本陸連のものを利用している関係で、学年が入っていない。今後、陸連と話をしていく必要がある。

② FISU ワールドユニバーシティゲームズ(2021/ 成都) について

(山下誠理事) 今回、チームリーダーという役で帯同した。内定の41名のうち短距離で1名辞退が出た。事前に決めていた選考方法にそって追加選手を選考した。コロナ対策について、4月半ばにJOCからワクチン2回が必要とアナウンスがあったが、最終的にはいらなくなり、ふりまわされた。中国入国の査証申請に関しては、家族構成、年収、親の渡航歴など個人情報が必要であったり、顔写真に関して背景が白と言われて撮ったが色が違うと言われて3回も差し替えたりした選手・役員もいた。査証センターに4時間も待たされることもあったが、なんとか無事取得したが、査証申請においては大変な時間と手間を要した。渡航について、成都には22時過ぎに到着して、バスで向かった。部屋に入ったのは夜中の2時くらいになった。生活面に関して、宿舎は成都大学の寄宿舎であったが、ホテルのような設備、各部屋に洗濯機があり、整っていた。食生活面では四川省は辛いと聞いていたが、単調ながら味付けは大丈夫で、食事の問題はなかった。競技場への移動バスではすべて座って移動できるような状況でホスピタリティが高い印象。結果について、投てき種目では出場選手全員が入賞。ロードも安定した結果が残せた。入賞率70%、今回の設定した選考基準は概ね妥当であったと思う。入賞を逃した種目は課題として今後検討していく。今後はメダル争いが激しくなるので、より本番に強い選手を選んでいきたい。なおJOCからは豊田君に団長賞が贈られた。全体的なことは以上。

(安井年文理事) メダルに関しては優勝2、銀4、銅5の11。前回、前々回はメダル数1位だったが順位を落とした。ただ中身を精査すると、入賞、メダルを取った種目が変わってきている。従来は長距離中心のメダル獲得であったが(豊田君の)短距離種目の金メダルというのは久しくなかったもの。個人の短距離としての初優勝は特筆されるものであった。宮崎君は8位だったがトラブルでピストルの音が聞こえなかった。隣のレーンが出るのを見てスタートしたような状況。その他、短距離陣の活躍は非常に目立った。銀メダルの西君はスタートしてけいれんを起こした。たればだが、けいれんがなければ、という残念さはある。ただ自己ベストを出しての結果は評価して良いと思う。種目のバランスという意味では入賞者が多くて、入賞していないのが5名しかいない。投てきの全種目入賞も初で、選考基準がうまくマッチングしたと考える。選考会議の中で喧々譁々の話はあったが、ある程度ブラッシュアップできた。この状況で予選落ちした選手は肩身の狭い思いをしたと思うが

レース後に積極的に他の選手のサポートを行い、チーム力という意味では良い貢献をしてもらったという印象。中身として、メダルの数は11だが、今後につながると思う。

(永井純専務理事) 110mHはワンツート取れそうな感じだと聞いていた。中身が上がっている。次回の選考基準についてだが、今回女子の4×100mリレーに関して、100m、200mの派遣標準を切っていない選手も選んだ。そこはもっと丁寧に選んではどうか。

(工藤洋治理事) 選考基準は理解できるが、それによって押し出される人が出るので、その人の納得感を確保するのが大事だと思う。リレーに関して、例えば過去3位、5位、4位の平均タイム、今回選ぶ人たちがそれと同等であるとか、その方が納得感はあるのでは。あとは長い課題になるかも知れないが、女子の選考に関しては女性の先生がいた方が良いかと思う。

(安井年文理事) 押し出して作った枠ではない。他の枠を押し出したのではなく、リレー枠を足して作っている。一般種目に関してのフィルターのきつさは過去と変わっていないと言うことは理解してほしい。37枠に、リレーでプラス4枠をいただいたということであって、41枠が先にあって決めたわけではない。リレーでもメダルが取れるのでJOCと折衝して加えてもらったということ。

(工藤洋治理事) 初めから枠が分かれているのなら良いが、知らない人からするとどうして?となる。その説明でいくのか、入賞できる枠、今回の4人もそこに入るという説明の方が納得感はあるかなと思う。

(安井年文理事) 優先順位について、リレーありきなのかという質問はあった。そこでメダル重視でという話をした。

③ 2024年度・2025年度競技会カレンダーについて

永井純専務理事から主要競技会日程について報告があった。

(永井純専務理事) 24年の個人選手権に関してWUGの選考会の場合は4月開催だったが6月の方が1年生も参加できるということで、6月開催とした。実業団・学生に関して23年は日本グランプリシリーズに入って成功となったが、来年以降は競技場がクラス2でなければならない。平塚はそれがないため、グランプリのEカテゴリーからは外れる可能性がある。他の競技場でやるとなると使用料や会場確保の問題がある。実業団としてはグランプリで実施したい。今後詰めていく。24年は7月にパリ五輪、駅伝に関しては期日が決まっている。

競歩と女子ハーフは共催で先方の期日に決まっている。立川のハーフに関して、2003年からお世話になっているが、諸々の事情で他の会場へ変えたいという意見がある。

- 25年の個人選手権はWUG選考会のため、4月開催を検討。WUGの手続きは5月と予想。

実業団・学生対抗陸上は未定。大きな課題は東京・世界陸上が従来の日本インカレの時期と重なる。また、日本選手権がいつになるかによってインカレをどこに入れるか。開催場所の問題もある。問題点としてはいつ開催するか、日本選手権の日程次第だが、WAからは7月、8月開催の要請もあるようだ。今は何も決まっていない。

③その他

(小倉幸雄理事) 情報共有としてだが、大阪陸協で競歩の大会、競歩の男女リレーを検討。パリを見据えて考えているようだ。

(北井敏雄理事) 箱根予選会に立命、京都産業、大阪経済の3校が出場表明。読売テレビの方で月末にイベントを行う。

- 関西大学駅伝が記念大会となる。京丹後市の市長がスポーツとふるさと納税を掛け合わせて何かやりたいと言っている。ふるさと納税を使って青山学院の旅費を出して呼ぶことを考えている。関西学連の参加校、関連自治体に聞いて継続してほしいということであれば、考えていきたい。町おこしというところで。

(長澤光雄理事) 8月10日から3日間、盗撮事案があっ

た。東北インカレでもドキュメンタリーを撮るということで動画クリエイターから申請があった。北日本に関しても同様の申請。申請書類も整っていて許可し報道ビブスで中に入った。退去、撮影中止を指示した。工藤理事にも相談して警察への通告も検討したが、犯罪として摘発するにはいたらない内容。

(日隈広至理事) 関東でもいろいろな方がいる。記者クラブに加盟、フリーランスはクラブから依頼されている方、信用できる方以外にはビブスを渡していない。迷惑撮影は4～5人は摘発している。まずは、あなたの人権を守るためにここに呼んだという話をして別室に呼んで、机を離して、撮影内容を見せてくださいとお願いする。こうすると、だいたい卑猥なものが出てくる。そこで消してほしいという話をして、拒否をされたら警察を呼んでいる。摘発までいったことはない。

(大西清司事務局長) 崎井幹事長が描いた「IUちゃん」というキャラクターでクッションを作成した。インカレ3位までの選手に渡す。このキャラクターに関して登録商標も済ませた。連合の標章に関しても実は商標登録を行っていなかったため、あわせて調査した。類似のものもあったが、登録を済ませた。また、役員用にバインダーを岡田晃総務副委員長のご厚意で作成してもらった。皆さんに配布する。

以上をもって議案の審議等を終了したので、15時00分、議長は閉会を宣し、解散した。

資料

「本連合主催の駅伝大会に関する規約」改定について(令和5年9月7日)

現行規定	改定案
第4条(全日本大学女子駅伝対校選手権大会) 全日本大学女子駅伝対校選手権大会は、開催日を10月最終日曜日、開催場所を仙台市とし、以下の区間構成によって行う。 (6区間 合計38.1km) 第1区 6.6km 第2区 3.9km 第3区 6.9km 第4区 4.8km 第5区 9.2km 第6区 6.7km	第4条(全日本大学女子駅伝対校選手権大会) 全日本大学女子駅伝対校選手権大会は、開催日を10月最終日曜日、開催場所を仙台市とし、以下の区間構成によって行う。 (6区間 合計38.0km) 1区(6.6km) 2区(4.0km) 3区(5.8km) 4区(4.8km) 5区(9.2km) 6区(7.6km)

2024 世界大学クロスカントリー選手権大会(オマーン) 日本代表選手選考について
2024 World University Cross Country Championship in Oman

競技会日程：2024年2月17日(土)、18日(日)

渡航日程：2024年2月14日(水)～20日(火) 日本着 7日間(予定)

開催場所：マスカット／オマーン

1. 編成方針

本大会において入賞が見込まれるとともに、今後の日本長距離界を担うことが期待され、学生トップレベルの競技力を有する競技者で編成する。

2. 選手派遣人数

男子10km：4名 女子10km：4名

3. 選考対象

2023年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員のうち、下記選考競技会において上位の競技者から代表選手を選考する。ただし、原則として、2023年度に大学3年生以下の者で、日本国籍を有する者を対象とする。

4. 選考方法**【男子】**

①天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会(埼玉県熊谷市)

5000m 8位入賞者から1名

10000m 8位入賞者から1名

②10000m記録上位者

・記録有効期間：2023年9月14日～2023年12月24日まで

・選考意思のあるものは、記録証を提出し派遣意思を示すこと。

なお記録証は日本学生陸上競技連合宛に提出すること。(下記お問い合わせ先参照)

・上記①で選考できない場合は②において4名選考する。

【女子】

①天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会(埼玉県熊谷市)

10000m 8位入賞者から1名

②関東学連の10000m記録挑戦競技会で選考レースを実施：3名

・期日：11月19日(日) 場所：東京都・国立競技場

・選考レースの申込方法は日本学連HPにて掲載する。(9月末予定)

・選考レースの参加資格記録は5000m(16分20秒00)、10000m(34分40秒00)とする。

・上記①で選考できない場合は②において4名選考する。

③10000m記録上位者

・上記①②で選考できない場合は③において4名選考する。

・記録有効期間：2023年9月14日～2023年12月24日まで

・選考意思のあるものは、記録証を提出し派遣意思を示すこと。

なお記録証は日本学生陸上競技連合宛に提出すること(下記お問い合わせ先参照)

5. その他

①代表選手として決定した後でも本大会までに故障などのために競技力を十分に発揮できないと強化委員会が判断した場合には代表を取り消す。その場合に、エントリー締切り前であるときは、別の競技者を代表選手として追加選考することがある。

②天災、その他の理由で選考競技会が中止になった場合は、代替の選考競技会を設定する場合がある。また、代替の選考競技会の設定が困難な場合は、理事会の決定により、他の選考方法によって選考する場合がある。

【お問い合わせ先】

〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11中沢ビル2F

公益社団法人日本学生陸上競技連合 TEL：03-5304-5542 / juauj@joy.ocn.ne.jp 担当：崎井、桑原、大西

資料

公益社団法人日本学生陸上競技連合 令和5年度栄章受章者(勲功章)

2. 勲功章(栄章に関する規程 第3条)

- (ア) 定款第6条第2号に規定する普通会員であってオリンピック競技大会に日本代表として出場し、入賞した者
 (イ) ワールドユニバーシティゲームズ競技大会に日本代表として出場し優勝した者
 (ウ) 定款第6条第2号に規定する普通会員であって世界選手権大会に日本代表として出場し、入賞した者
 (エ) 定款第6条第2号に規定する普通会員であって世界記録を更新した者

※年齢は競技会当日

栄章	氏名	競技会名/成績	年齢	区分	所属
勲功章	トヨタ ケン 豊田 兼	ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) 110mH 金メダル 13秒40	20	イ	慶應義塾大学
勲功章	キタガワ ヒカル 北川 星瑠	ワールドユニバーシティゲームズ(2021/成都) ハーフマラソン 金メダル 1.13.17	21	イ	大阪芸術大学
勲功章	ヤナギタ ヒロキ 柳田 大輝	ブダベスト世界陸上 4×100mR 5位 37秒83 2走	20	ウ	東洋大学

資料

執行役員による職務執行の状況報告(2023/5/20以降)

月 日	行 事 (報告内容)
5月20日(土)	第59回理事会(ZOOM)によるオンライン会議
5月22日(月)	第63回実学対抗陸上/実行委員会 於:TKP市ヶ谷会議室
5月30日(火)	全日本大学女子駅伝読売新聞打ち合わせ 於:日本学連事務局
5月30日(火)	ABC朝日放送/大阪陸協 新企画打ち合わせ 於:日本学連事務局
5月30日(火)	日本IC補助員交通費支給に関する検討会 ※ZOOMによるオンライン会議
6月3日(土)・4日(日)	日本陸上競技選手権・学生幹事研修 於:大阪・長居
6月5日(月)	WUG代表選手確定に向けて関係者打ち合わせ ※ZOOMによるオンライン会議
6月6日(火)	WUG代表選手関係書類(2回目)提出
6月8日(木)	強化委員会 ※ZOOMによるオンライン会議
6月10日(土)	第15回定時社員総会開催 於:TKP新宿西口カンファレンスセンター
6月10日(土)	第60回理事会 於:TKP新宿西口カンファレンスセンター
6月14日(水)	富士山女子駅伝実行委員会 於:富士市教育会館及びZOOM
6月19日(月)	日本IC補助員交通費支給に関する検討会 ※ZOOMによるオンライン会議
6月24日(土) ~25日(日)	WUG代表選手長距離合宿 於:横浜市
6月24日(土)	全日本大学女子駅伝・新コース下見 於:仙台市
6月29日(木)	第63回実学対抗陸上/番組編成会議 日本学連事務局/ZOOM
6月30日(金)	第63回実学対抗陸上競技大会/前日練習 於:平塚市・レモンガスタジアム
7月1日(土)	第63回実学対抗陸上競技大会開催 於:平塚市・レモンガスタジアム
7月3日(月)	総務委員会 於:日本学連事務局およびZOOMによる開催
7月4日(火)	第27回日本学生女子ハーフ(松江レディースハーフ)実行委員会 於:松江市
7月5日(水)	全日本大学女子駅伝・コース計測会議 於:仙台市およびZOOMによる会議
7月6日(木)	競技委員会 於:日本学連事務局/ZOOM
7月7日(金)	WUG監督会議及びドクター会議 於:NTC
7月12日(金)	WUG関係者ミーティング ※ZOOMによるオンライン会議
7月14日(金)	全日本大学駅伝/スポンサーミーティング(クラオス) 於:日本学連事務局
7月18日(火)	全日本大学女子駅伝運営に関するミーティング(読売) ※ZOOMによるオンライン会議
7月19日(水)	日本IC/熊谷スポーツ公園陸上競技場 利用挨拶 於:熊谷スポーツ公園
7月20日(木)	富士山女子駅伝・交通対策会議 於:富士市-教育会館
7月20日(木)	日本IC-埼玉陸上競技協会 打ち合わせ 於:上尾市 陸協事務所
7月21日(金)	出雲駅伝・実行委員会 於:出雲市/武志山荘
7月21日(金)	総務委員会 於:日本学連事務局およびZOOMによる開催
7月22日(土) 23(日)	WUG 短距離リレー合宿 於:NTC
7月24日(月)	迷惑撮影対策に関するミーティング ※ZOOMによるオンライン会議
7月27日(木)	WUG 陸上競技第一陣出発 見送り(激励会) ※成田空港
7月27日(木)	競技委員会 於:日本学連事務局/ZOOM
7月28日(金)	全日本大学女子駅伝・新コース下見 於:仙台市
7月29日(土)	WUG 陸上競技第二陣出発 見送り ※成田空港
8月1日(火) ~6日(日)	WUG(成都/2021)陸上競技開催 於:中国・成都
8月7日(月)	WUG帰国(関西空港)
8月8日(火)	WUG帰国(成田空港)出迎え
8月15日(火)	日本IC報道関係 部会 於:日本学連事務局
8月16日(水)	日本IC YTV E P会議 ※ZOOMによるオンライン会議
8月16日(水)	2024世界大学クロカン(オマーン)選考に関する会議 ※ZOOMによるオンライン会議
8月17日(木)	全日本大学駅伝/シチズン挨拶(クラオス) 於:シチズン本社(田無)
8月17日(木)	総務委員会 於:日本学連事務局およびZOOMによる開催
8月23日(水)	日本IC/ライブ配信(YTV)及びテレビ朝日下見立ち合い 於:熊谷市
8月25日(水)	日本IC番組編成会議 於:日本学連事務局およびZOOMによるオンライン
8月28日(月)	富士山女子駅伝事務局ミーティング 於:日本学連事務局
8月28日(月)	2024・2025年度カレンダー検討ミーティング ※ZOOMによるオンライン会議
8月31日(木)	全日本大学駅伝・事務局会議 ※ZOOMによるオンライン会議
9月2日(土)	日本IC審判主任者会議 於:熊谷市・陸上競技場会議室
9月4日(月)	全日本大学駅伝・運営会議 ※ZOOMによるオンライン会議
9月4日(月)	日本グランプリシリーズ・会議(日本陸連) ※ZOOMによるオンライン会議
9月5日(火)	日本IC補助員交通費支給に関する検討会 ※ZOOMによるオンライン会議
9月7日(木)	第35回企画委員会 ※ZOOMによるオンライン会議
9月8日(金)	日本IC報道関係 部会 於:日本学連事務局
9月8日(金)	日本IC 迷惑撮影/埼玉県警打ち合わせ 於:日本学連事務局
9月14日(木)	第61回理事会 於:熊谷/陸上競技場内会議室

競技委員会より

第92回日本インカレを終えて

競技委員長 関根 春幸

今年の夏は異常気象でとても暑い夏でした。インカレの最中の埼玉県熊谷市も例外ではなく、午後6時の気温は以下の通りでした。

9月14日(木) 気温 32度 湿度 32%
9月15日(金) 気温 29度 湿度 65%
9月16日(土) 気温 31度 湿度 58%
9月17日(日) 気温 33度 湿度 48% (15時)

高温多湿の状態が続き、長距離種目や競歩種目の運営は困難を極めました。気温や湿度が下がることを期待しながらも、競技が本当にできるのかどうかを医事委員会や強化委員会の方々と相談し、最悪の場合は中止もあり得るという覚悟で準備を進めました。特に、レース中に熱中症にならないよう気を配り、バックストレートで給水や氷の配布をこまめに行いました。その結果、大事に至らずに競技会を終えたことは幸いだと思っています。これからもこのような気象条件が続くのであれば抜本的な改革、日程や場所の検討も必要になってくるのではないかと感じるくらい危険な状況での競技会でした。

抜本的な改革というと、今回から大きく変わった点があります。これまで3日間開催だった会期を3.5日間開催に延長し、埼玉陸上競技協会のご協力のもと木曜日の15時から競技を行いました。木曜日は人手がないため、100m男女予選、400m男女予選、4×100mリレー男女予選、

10000m男女決勝のみを行いました。短距離種目に参加する選手の負担軽減を目指したものです。

100m、200mに参加する多くの選手はリレー種目も兼ねていることから、3日間でそのすべてに参加するのは過酷だという判断がありました。また、近年の異常気象で厳しい暑さが続いているのも一つの原因です。長距離選手、競歩選手のみならず、どんな選手でも自分の最高のパフォーマンスをこの日本インカレで発揮しようと、日夜練習に励んでいることと思います。その思いに何とか応えたいとの思いで、3.5日間を実施しました。これについてはいろいろな評価があり、賛成、反対の意見があることと思います。ぜひ、各大学の監督、コーチや選手の皆さんから評価していただきたいと思っています。

競技日程に関しても満足とは言えないまでも熊谷文化スポーツ公園の施設をフルに稼働し、競技役員、補助役員が少なくても運営できるよう工夫しました。広大な敷地と施設を持つ熊谷文化スポーツ公園ならではの運営になりました。他の競技場では窮屈でできないこともできるこの競技場の職員方々にも、大変お世話になりました。埼玉陸上競技協会の競技役員の方々に木曜日から来ていただき、最後の日曜日まで頑張ってくださいありがとうございました。また、学生幹事、学生審判員、学生補助員の協力がなければ大会は成立しません。皆さんのご協力のもと、コロナ感染症が蔓延する前の状態の競技会ができたこと、競技会の中で様々な素晴らしい記録が生まれたことはすべてに皆様のご協力のおかげです。改めて感謝申し上げます。

次年度は神奈川県川崎市での開催となります。この競技会についても今回同様、変わらぬご協力、ご支援をお願いいたします。

総務委員会より

第92回日本インカレの大会運営について

総務委員長 障子 恵

より高いパフォーマンスを発揮できるよう、今年の本大会は、3.5日開催となりました。普通会員(各大学陸上部員)、大学関係者に加え、ご家族、中高生など、推定25,000人を超える方がご来場くださいました。心より感謝申し上げます。

本大会における競技場管理は、コロナ禍以前の体制にしました。本大会では感染防止を意識しつつも、本連合としては来場者の検温、マスク着用、手指消毒等は求めず、大きな声での応援も解禁しました。スタジアムへの入退場口も複数設けましたが、本大会は有料試合であることから、不正入場ゼロを目指し、入場口でのIDチェックは引き続き厳格に行っております。

本連合では2006年より、迷惑撮影(盗撮)から競技者を守る対策を逸早く取り組んでおります。今年7月13

日に撮影罪が施行されたこともあり、本大会では埼玉県警察熊谷警察署と協働で『迷惑撮影(アスリート盗撮)防止キャンペーン』を行い、迷惑撮影防止に関する啓蒙活動を行いました。スポーツ団体と警察が連携した競技会開催中のイベント実施は例がなく、迷惑撮影を絶対に許さないという強い意志を示せたかと思っています。

また、大会期間中、熊谷警察署の方が競技場内を巡回してくださいました結果、迷惑撮影を未然に防いだけでなく、置き引き等の事件・事故の連絡も届いておらず、主催者としては安全な競技会運営ができたと感じております。『陸上が好きだ。だから迷惑撮影を許さない。』というメッセージの迷惑撮影防止動画も随時大型スクリーンに投影し、アスリートが安心して最高のパフォーマンスを発揮できる環境整備に努めました。

趣向を凝らした各大学の応援合戦、声を嗄らすほど大きな声での母校への応援は『これぞ日本インカレ!』。日本学生新記録(日本タイ記録)や複数の大会新記録が樹立されるなど、次々と好記録が誕生しましたが、きっとこの応援も選手の大きな力になったことでしょう。

最後になりますが、本大会を支えてくださいました埼玉県陸上競技協会、熊谷警察署をはじめ、運営にご協力くださいましたすべての方に、心より御礼申し上げます。本大会も学生幹事、学生審判員、学生補助員の頑張りが大会の成功に導いたと言っても過言ではありません。お疲れ様でした。



埼玉県警察熊谷警察署と協働で『迷惑撮影(アスリート盗撮)防止キャンペーン』を実施した

令和5年 日本学生陸上競技連合

会員について(2023年度)

令和5年8月31日現在

正会員 135名

普通会員 19,250名

賛助会員 7名

日本学生陸上競技連合 普通会員の各月変遷

単位：人

	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	月合計
年度前	313	617	5,248	585	1,120	2,976	1,139	959	12,957
4月	217	187	2132	249	268	182	461	363	4,059
5月	89	98	549	113	142	294	94	127	1,506
6月	10	34	164	30	47	103	48	57	493
7月	0	3	54	3	30	48	11	17	166
8月	4	6	24	0	14	10	7	4	69
9月									0
10月									0
11月									0
12月									0
二重登録									
退会者									
合計	633	945	8,171	980	1,621	3,613	1,760	1,527	19,250

増員数 2,215名

【参考：普通会員数の推移】

単位：人

年度	北海道	東北	関東	北信越	東海	関西	中国四国	九州	合計	前年比	5年前比	10年前比
2023	633	945	8,171	980	1,621	3,613	1,760	1,527	19,250	333 ↑	-1,492	676
2022	597	854	8046	942	1639	3580	1735	1524	18,917	352 ↑	-1,866	743
2021	560	890	7883	915	1667	3517	1654	1479	18565	391 ↑	-2,132	687
2020	556	896	7704	914	1610	3419	1600	1475	18,174	-2,122 ↓	-1,916	933
2019	702	979	8373	996	1938	3764	1787	1757	20,296	-446 ↓	840	3,444
2018	726	1017	8487	1024	2073	3808	1832	1775	20742	-41 ↓	2,168	4085
2017	749	973	8588	1009	2098	3758	1853	1755	20783	86 ↑	2609	4450
2016	756	933	8578	1009	2088	3689	1884	1760	20697	607 ↑	2819	4483
2015	705	943	8221	1021	2007	3547	1904	1742	20090	634 ↑	2849	4269
2014	680	929	7981	965	1936	3507	1843	1615	19456	882 ↑	2604	4230
2013	628	914	7547	903	1835	3383	1781	1583	18574	400 ↑	1917	3991
2012	640	910	7273	832	1826	3360	1736	1597	18174	296 ↑	1841	3969
2011	711	933	7065	834	1756	3236	1723	1620	17878	637 ↑	1664	3929
2010	688	919	6792	821	1686	3106	1653	1576	17241	389 ↑	1420	3374
2009	715	878	6641	879	1611	3000	1630	1498	16852	195 ↑	1626	2920
2008	754	952	6626	822	1480	2923	1598	1502	16657	324 ↑	2074	
2007	651	977	6497	799	1426	2870	1520	1593	16333	119 ↑	2128	
2006	651	1005	6452	743	1493	2829	1471	1570	16214	393 ↑	2265	
2005	636	1041	6258	763	1429	2728	1441	1525	15821	595 ↑	1954	
2004	599	984	6118	751	1321	2605	1410	1438	15226	643 ↑	1294	
2003	587	885	5864	749	1257	2519	1311	1411	14583	378 ↑		
2002	604	841	5663	755	1184	2478	1259	1421	14205			

2022年度	男子	女子	合計	前年比	比率(%)
北海道	465	132	597	37	3.2
東北	658	196	854	-36	4.5
関東	6,180	1,856	8,036	155	42.5
北信越	742	200	942	27	5.0
東海	1,193	446	1,639	-28	8.7
関西	2,519	1,059	3,578	70	18.9
中国四国	1,324	410	1,734	80	9.2
九州	1,154	370	1,524	45	8.1
全体	14,235	4,669	18,904	350	

2021年度	男子	女子	合計
北海道	440	120	560
東北	664	226	890
関東	6,051	1,830	7,881
北信越	729	186	915
東海	1,203	464	1,667
関西	2,482	1,026	3,508
中国四国	1,253	401	1,654
九州	1,122	357	1,479
全体	13,944	4,610	18,554

|令和5年度 賛助会員

(10月6日現在 五十音順、敬称略)

ご入会ありがとうございました

浅見美弥子 阿保 雅行 安藤 好郎 石黒 成彬 入江 毅 金子今朝秋
黒岩 重幸 桑原 美代 小池 七郎 櫻井 孝次 田中 淳浩 綱分 憲明
藤井 邦夫 藤井 英嘉 山崎 健

賛助会員募集中

この法人の目的及び活動に賛同し賛助する個人又は団体の方は、是非ご検討ください。

〈年会費〉賛助会員 ￥10,000 (1口)

※年会費は毎年納入していただく必要があります、年度内(3月31日)まで有効となります。

※本法人への賛助会費は寄付として扱われ、所得税等の納税控除の対象となります。

〈特典〉・会報への氏名・団体名の記載

・天皇賜盃日本学生陸上競技対校選手権大会への無料入場

〈入会手続きについて〉

①申込書(個人・団体)に必要な事項を記入し、本法人へ郵送又はFAXしてください。



②本法人の指定銀行口座へ、年会費をお振込み願います。



③ご入金が確認でき次第、本法人の賛助会員として登録させていただきます。

何かご不明な点がございましたら、下記事務局までお問い合わせください。

【発行所】公益社団法人 日本学生陸上競技連合 〒151-0053 東京都渋谷区代々木1-58-11 中沢ビル2階
TEL 03-5304-5542 FAX 03-5304-5569

|編|集|後|記|

会報第167号(令和5年5月8日発刊)以降の事業では、令和5年7月1日に秩父宮賜杯第63回実業団・学生対抗陸上競技大会がレモンガススタジアム平塚で開催されました。今回からカテゴリFからEに格上げされ、日本グランプリシリーズに参入ということになり、ポイント評価が上がる大会となりました。そのため、競技力の高い選手が多数参加し、見応えのある大会となりました。

2023年7月28日～8月8日(陸上競技は8月1日～8月6日)にFISUワールドユニバーシティゲームズ(中国/WUG成都)が開催されました。前回のナポリ大会から2度の延期で長かった4年間でしたが、無事終えることができました。選考方針は①日本学連の使命は現役大学生の競技力向上であること、②JOCの派遣方針が原則は現役大学生とし、将来、オリンピック等の国際大会で活躍が期待できるものとして推薦された中から選考する、等から「2023年開催のWUG(中国/成都)における陸上競技のチーム編成は現役大学生のみで編成する」であり、男子選手24名、女子選手17名が戦ってきました。メダル数は前回のナポリ大会の19から11と減りましたが、入賞率(8位以上)は70.83と非常に高く、選考基準が適正であったと評価できるものでした。次回のドイツでのWUGはメダル獲得数、入賞率をより上げるようがんばりたいと思っています。

第92回日本学生陸上競技対校選手権大会(熊谷スポーツ文化公園陸上競技場)は令和5年9月14日～17日に開催されました。

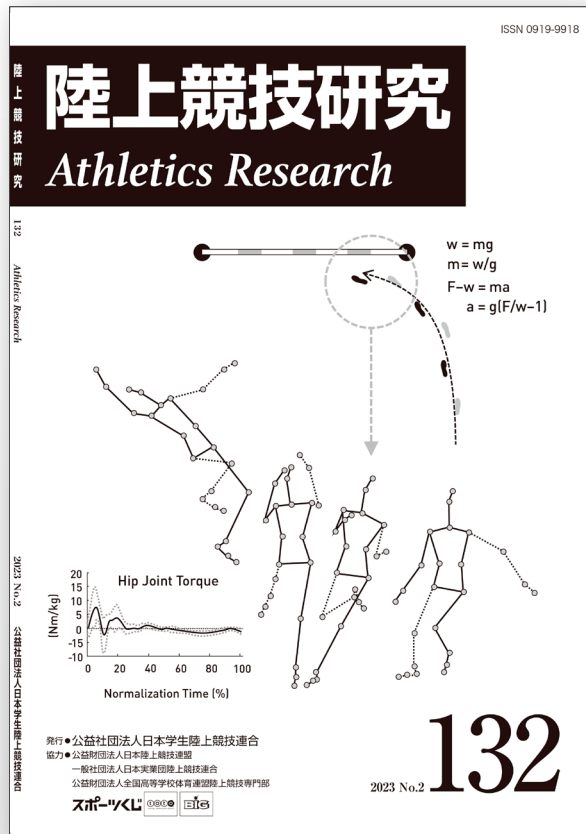
男子は順天堂大学が3連覇を飾り、女子は日本体育大学が同じく3連覇を飾りました。今年は異常なほどの暑さで夕方になっても32度～33度あり、長距離・競歩種目では暑さ対策に神経を使いました。多くの氷、水、スポンジ等を用意し、選手にもレース中の給水補給をお願いしました。

また、15年ほど前から総務委員会の先生方、学生補助員の皆さんで盗撮防止に取り組んできましたが、なかなか成果は上がりず、取り締まりから看板などで抑止する方向性を出しましたが、埼玉県が盗撮防止の条例を出したため、埼玉県警、熊谷警察署がキャンペーンを展開し、また警察官に見回りに協力をしていただきほとんど被害はありませんでした。埼玉県警・熊谷警察署にこの場をお借りし感謝申し上げます。

10月からいよいよ駅伝のシーズンに入ります。10月のスポーツの日(10月7日)に第35回出雲全日本大学選抜駅伝、10月の最終日曜日に第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会、11月の最初の日曜日に秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝対校選手権大会、12月30日に2023全日本大学女子選抜駅伝競走が開催されます。どの大会も暑い戦いが展開されると思います。ご期待ください。

コロナ禍の収束もいまだに見通しは立ちませんが、その中、日本学生陸上競技連合は用心に用心を重ね、また皆様からいろいろご意見をお伺いしながら粛々と、令和5年度の事業計画を進めていくつもりです。今後とも進展と向上を目指したいと存じます。(副会長/専務理事 永井 純)

「陸上競技研究」購読のご案内



第 132 号
2023, No. 2
2023 年 6 月発行



公益社団法人 日本学生陸上競技連合は機関研究誌『陸上競技研究』を発行しています。
購読会員として入会ご希望の方は、年会費 (6,000 円) を下記へ郵便振替にてご送金ください。

口座記号番号 00190-4-142923

加入者名 (株)陸上競技社 陸上競技研究

通信欄に「何号から 1 年間」と必ず明記してください。

バックナンバーについては(株)陸上競技社 (TEL03-5215-8881) にお問い合わせください。

(株) 陸上競技社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 3-2-6 TEL. 03(5215)8881 FAX.03(5215)8882 <http://www.rikujyokogyo.co.jp>